

ソヴェート経済復興の現状と将来



\*0022548000\*

0022548-000

579-13

ソヴェート経済復興の現状と将来

大阪市産業部調査課・編

大阪市産業部調査課

昭和3

ADC



ソヴェート經濟復興の現状と將來

大阪市役所産業部調査課



ソヴェート社會主義共和國聯邦の經濟復興問題が始めて議せられたのは大正九年十二月二十二日であつた。即ちこの日の全露ソヴェート大會に於て (一)露國の電化 (二)運輸業の復興 (三)工業の復興 (四)農業生産力の増進及農業に對する援助等が議決せられ或もの(農業復興法案は法律となり、或もの(工業復興案)は訓令として發布せられた。これが現ソヴェート經濟復興の出發點である。

これより以前即ち第八回全露ソヴェート大會以前に於ては歐洲大戰参加及び國內の革命混亂で經濟復興と云ふ方面に力を注ぐ餘裕がなかつた。本年は復興期に入つてより八年になるが過去七ヶ年に於てソヴェートの經濟が如何なる程度まで復興し、又將來如何になり行くかを考察する事は對露企業及び對露貿易上必要な事であると信ずる。

## ソヴェート經濟復興の現状と將來目次

**第一章 ソヴェート産業略史**.....一

第一節 破壊混亂時代.....一

第二節 復興時代.....六

第三節 改造時代.....二二

    ソヴェートの財政.....二四

    ソヴェートの農業.....二九

        第一節 農業の復興.....二九

        第二節 主要農産物.....三六

        ソヴェートの工業.....三六

    第一節 工業の復興.....三六

    第二節 工業の三體様.....三五

    第三節 主要工業の現状.....三八

        一 金屬工業.....三八







(三) 復興時代  
(二) 破壊混亂時代

### 第一章 ソヴェート産業略史

一九一三年以後に於けるソヴェート産業は之を三期に区分する事が出来る。即ち

(一) 破壊混亂時代

#### 第一節 破壊混亂時代

此の時代は一九一三年より一九二〇年に至る八ヶ年間である。即ち露國が歐洲大戰に参加する直前から參戰を経て革命に及びその産業が極度の行詰りを示し、遂に主義を曲げ利權法を發布した翌月即ち第八回全露共産黨大會を開いた一九二〇年十一月末までである。實に此時期に於ける露西亞産業は破壊と混亂の連鎖劇であつた。今この時代に於ける露國を見るに大正二年(一九一三年)末に於て露國の外債は約四十五億留、これに内債の四十五億留を加へ實に九十億留の多きに上り此の利子支拂のみにても年々四億留に達し、外資輸入の多額に上りし結果、貿易上にては常に出超のバランスを得るに拘らず、利子支拂の爲めに國際貸借上却つて債務國となつて居り、露國財政の基礎は極めて薄弱で、國富も亦次表の如く一九一三年に於ては當時列強中の最下位にあつた。

二 紡績業.....	四八
三 羊毛工業.....	四八
四 リンネル工業.....	四九
五 亞麻工業.....	五〇
<b>第五章 ソヴェートの商業</b> .....	五二
第一節 商業の三體様.....	五二
第二節 定期市場の復活.....	五五
<b>第六章 ソヴェートの對外貿易</b> .....	五七
第一節 貿易の狀態.....	五七
第二節 外國貿易制度.....	六一
<b>第七章 ソヴェート貨幣制度</b> .....	六四
<b>第八章 ソヴェート信用機關</b> .....	六七
<b>第九章 ソヴェートの交通</b> .....	七四
<b>第十章 結 言</b> .....	七八



比較		總額	一人當り富
露	佛		
露	佛	二、五〇〇億弗	二、四〇弗
英	獨逸	九〇〇	二〇〇
米	獨逸	八〇〇	一三〇
獨逸	獨逸	七〇〇	一六二
佛	獨逸	六〇〇	〇・三三

而して露國工業は國內資金の缺乏と金利高のため、外資の流入を招き、外國資本及び技術に依つて中心を壓へられ殊に鑛業、金屬工業、織維工業は最も外資に仰ぐ事多く、金融機關も亦外人に依り全然操縦せられるといふ状態で、全く自立力を失つた點が多かつた。(今列國の對露投資額の一九一六年度現在を示せば次の如くである。)

國別	投資額	割合
佛	七三一、七四六・六千留	三二・六%
英	五〇七、四七九・八	二二・六
獨逸	四四一、五九三・二	一九・七
白	三二一、六〇二・五	一四・三
米	一一七、七五〇・〇	五・二
和	三六、四五六・七	一・六
瑞	三三、四七九・一	一・五
瑞	二二、七七二・三	一・一

企業別	投資額	割合
丁	一四、七三七・七	〇・七
埃	七、五五〇・〇	〇・四
伊	二、五〇六・二	〇・一
諾	二、三〇〇・〇	〇・一
芬	二、〇〇〇・〇	〇・一
計	二、二四二、九七四・一	一〇〇・〇

更に之を企業別に見れば次の如くである。

企業別	投資額	企業別	投資額
鑛業	八三四、三二〇・一千留	商	八〇、七一五・二千留
金屬工業	三九二、七〇九・六	食料品及香料工業	三七、三三〇・五
織維工業	一九二、四九四・〇	製紙及印刷工業	三一、四〇四・八
化學工業	八三、五九三・二	運輸業	二六、六五〇・〇
都市不動産、建築事業	二五九、四三〇・九	畜産物精製工業	一四、四五〇・〇
信用機關	二二七、二〇〇・〇	保險業	八、七〇〇・〇
木材工業	二五、七三六・五	礦物精製工業	一八、二三九・三
計	二、二四二、九七四・一		

然るに大正三年歐洲大戰に参加するに及び、露國の産業界及び市場を左右して居た在露獨逸人の企業休止、獨逸系



金融會社の閉鎖、獨逸人の本國引揚、獨逸との輸出入杜絶により露國の産業は混亂状態となつた。(加之參戰に依る工業動員は露國の生産業を軍需品工場化した爲め、國民必需品の大缺乏を告げたのである。露西亞當局は此の不足物資を日本及び米國に仰いたのであるが、越えて大正四年には早くも戦費に窮し、多くの外債を求むるの外なき窮狀に陥つた。當時露軍の總數は一千二百萬人に及び戦線は一千五百哩に擴がり、日々莫大なる軍費を必要として居たのである。今大正四年一月末現在に於ける露國の國債を見るに、一般國債五十七億二千七百萬留、國有鐵道公債三十億九千七百萬留、政府保證債務三十八億三百萬留、合計百二十六億二千七百萬留に達して居る。又戦費の一人當り負擔額は四留八十哥となつて居た。又紙幣發行高は十三億千七百萬留、之に對する發行準備高は八億二千八百萬留を示すに至つた。斯くて大正五年に入つては十八歳より四十五歳迄の徵兵を強行した爲め勞働者不足による農村の危機襲來し、都會も亦勞力不足にて、さなきだに混沌たる産業界に一層の暗影を投げたのである。茲に於て國內工業の危機襲來となつたが、露國の政情は戦争の爲め之を救済するの暇を持たなかつた。翌大正六年に入りても産業界の慘憺たる狀況は依然改められざるのみか、益々擴大せられるのみであつた。斯くて此の年の二月には帝政没落となり、三月十五日には「ニコライ」の退位を見、同月十七日遂に半革命的ケレンスキー内閣の出現を見るに至つたが、間もなく十二月六日同内閣は崩壊してソヴェート政府の樹立となつた。而して彼等の理想境に近づくべく險惡なる道程を辿り、先づ一九一七年十一月八日には最も有力且つ普遍的な私有物たる土地を國有とし同年十二月十日には都市に於ける不動産の徵發を行ひ、同月二十七日銀行國有令及び銀行に於ける貴重品保存庫沒收令を發布し、越えて一九一八年一月十一日

には遂に内外國公債の利札及株式配當支拂の中止を行ひ、同年二月八日には商船國有令、私營銀行の株式資本沒收令、同月十日に帝政時代の對外債破棄法令、四月二十二日外國貿易國有令、五月十日相續權廢止令、五月十三日に餘剩穀物徵發令、穀物國家專賣並に小投機業者嚴罰令、六月二十八日大企業國有令を發布して資本主義經濟を全然否定し之と同時に社會主義的經濟組織の組立が開始せられたのであるが、列國はかくの如き露國の無謀を傍觀する筈なく、盛に武力干渉に出でたる外、内に舊支配階級、舊思想所有者の反革命運動起り、ソヴェート政府は社會主義國家の生みの悩みを経験したのである。而して此間に於ける露西亞の凡ゆる都市は食料、燃料原料の缺乏等凡ゆる物資窮迫を告げて生活難は甚だしく、工場は休止し、失業者は續出し、全露を通じて戦時と何等異なる所なき状態となつた。(尤も大正七年(一九一八年)にはソヴェート政府が戦時共產主義を實行するに及び、幾分人心の動搖を防ぎ産業の統制に努めたが、ヤロスラウ市に於ける白軍兵亂(七月六日)、七月三十一日のエカテリンブルグに於けるチエク軍の蜂起、八月五日アルハンゲリスクに於ける英軍との衝突、十一月廿四日バクター方面に於ける英軍及びデニキン軍との接戦等の爲め、ソヴェート政府唯一の武力たる赤衛軍の大擴張、軍費及び軍需品の大徵發のために一切を犠牲にし、その結果産業は破壊せられ帝政時代の遺産が徒費せられるのみであつた。かくて大正八年一月十二日に至り各國の全露封塞が完全に遂行され第三國よりの物資輸入の途も絶たれ、從來國內生産の減少を輸入に仰いで漸く生活を續けたものが、國內生産のみで國民の生活を保つて行かなければならなくなり、斯くて露國は窮狀より死地に突き落されんとしたのであるが、幸に翌一九二〇年半年頃より各國の對露共同封鎖も解け始め、一面共產黨の色彩も變つて來た。當時露西亞



の國情が叙上の如き久しきに亘る混亂に加ふるに、一九一九年より一九二〇年に至る大飢饉も手傳つて政府が外敵と戦ふ唯一の武力たる赤衛軍四百萬人をさへ支持し得ない迄に窮迫した。斯くて遂に革命軍の猛將トロツキーをして「國民經濟の發達が停止しては勿論社會主義もなく、又資本主義もなく、社會主義制度を建設せんが爲には國家が經濟的に向上せん事を根本原則とす」と叫ばしむるに至り、又全露共産黨員も時勢の推移に抗し難く色を變じて資本主義に傾き、一九二〇年十一月利權法の發布を斷行し、同年十二月二十二日の全露ソヴェート大會に於て露西亞産業の復興を議するに至つたのである。かくて一九一三年より一九二〇年に亘る露西亞産業の破壊、混亂時代の幕は塞されて漸く其の復興時代に移つたのである。

## 第二節 復興時代

此の時代は一九二二年より一九二七年に至る七ヶ年間である。勿論嚴密なる意味に於ては爾かく確然たる區劃は與へられないが、概念的に以上の期間が復興期であると思はれる。今右期間に於ける露西亞の状態を見るに極端なる全露的經濟行詰りに耐えかねて右傾し初めたるソヴェート政府は更に右傾の度を進め、大正十年(一九二一年)三月二十一日遂に新經濟政策を發布するに至つた。露西亞の人口一億五千萬人中約九割迄は農民であり、戦前に於ける露西亞輸出總額の四分の三が農産物なりし事實に徴し、露國が農業國である事が知らるべく、従つて政治は一に農民を基礎とした政治でなければならぬ事も肯かれる。然るに前期産業破壊時代に於て最も荒廢の極に達した産業は、その程度から云つても、量から云つても農村であつた。農民は假令土地の分配を受けても却つて土地の細分が行はれる爲め

規模が縮小され農業は進歩せなかつた。更に餘剰生産物強制徵發制度は、農業經營を消極化して各農民は自己生活の必要以上には農産物を生産せぬ爲め、農民は食料品に窮せざるも工業者、都市生活者は品物のみありてパンなき生活を營まざるを得ざる有様であつた。之が爲め全露國は食料難に陥り國民經濟の根本的禍根を造つたのである。茲に於て農民をして自ら進んで耕作せしむる様な方法を講じたのが即ち新經濟政策である。

新經濟政策は斯くして生れ農村に食料品及び工業原料品を多額に生産せしめ、都市工業者は之亦日用品、工業品の多産を計り食料品と交換するの可能性を與へたのである。即ち一九二二年三月二十三日の命令を以て從來の餘剰穀物徵發を廢し、その代りに農民に對して見積收穫の割の現物税を課し、其他の農産物は農民の自由處分に委したのである。農産物の自由處分を許した以上、工業に對しても之に相應する政策を取らねばならぬ。茲に於て政府は凡ゆる工業に對してその生産物の五分乃至一割を直接に食糧と交換する事を許可した。更に一九二一年五月二十四日に發布せられ同年八月九日の人民委員評議會の訓令に依つて補充せられたる命令は、自由取引に關する一般的原则を次の如く決定した。

(一) 現物税を完全に納付したる後の餘剰農産物の交換、購入、販賣を許可する。

(二) 交換、購入及び販賣は私人及び農民消費組合や家内工業製品の協同賣店等の協同組合的團體に許可せられ、且市場、バザール、賣店、假小屋並に獨立商店に於て之を行ふ事を得る。

(三) ソヴェート政府の經濟機關に依り、又はかかる機關の監督の下に直接に生産せられたる生産物は交換の目的



を以てソヴェート共和國の商品交換基本の中に繰入れられ、第四條に規定するところに従つて分配に供せられる。

(四) ソヴェート共和國の商品交換基本は食糧人民委員の監督の下にあつて、主として協同組合的組織を通じ、又特別の場合には委員會的基礎の上に行動する私人を通じて、商業的交換に充てられる、但し何れの場合にも全露消費組合中央同盟と食糧人民委員會との協定に従つて全露消費組合中央同盟と相談して行はれるものとする。

(五) 市場、バザール、賣店、假小屋其他の場所並に獨立商店に於ける取引は食糧人民委員會が内務人民委員會と共に發布し且つ人民委員評議會が認可したる一般的訓令の範圍内に於て執行委員會が發布したる命令及び規則に依つて規律せられるものとする。

而して一九二一年十二月十日の命令を以て工業に於ても二十人以下の労働者を使用する小企業の國有を廢止すると共に、この時まで事實上國有化されなかつた企業は如何に大きなものでもそのまゝ私有を許した。又一九二三年三月二十二日の命令は如何なる大企業も利權讓渡の手續に依つて一定期間國有を停止する事を得るものとした。

かくて露西亞産業は新經濟政策の施行により漸く復興の曙光を放ち初めたのであるが、久しきに亘る國內の混亂の結果は此軌道に幾多障害を残し、政府の計畫通りに復興事業が進まなかつた。即ち農民は現物税の實施に依り餘剰生産物の自由處分が出来る様になつたので、耕作に興味を持つて積極的となり、食糧の不足の杞憂は漸く除かれたのであるが、不幸にも一九二一年の凶作で國內は大飢饉に襲はれた。従てこの年は食糧の大不足を來し農産物の價格は

著しく騰貴し、工業製品の價格より割高となつた。元來露西亞の農産物は工業製品價格より割安である筈であるからこれは全く異常のものであつた。然るに工業製品もその翌年九月より騰貴し初めこゝに物價の平準が保たれたが、工業製品の價格は益々騰貴して、その反對に農産物が下落したから兩者の開きは益々甚だしくなつた。露西亞の生産工業品の最大販路は云ふ迄もなく國內農村であるが、農村は數年來の共產主義の強行に依つて政府の豫測を裏切つて耕作は減じ、生産は逐年減退し、生産餘剰は少なく、従て農民の購買力は低下し工業生産品を買ふだけの餘力が無くなつた。買はんとしても工業生産品は生産過少なると、勞銀高、原料高にて手が出せない。加ふるに當時は未だ分配機關が完備を缺き、且交通機關の破壊損傷の爲めに分配の自由を失つて居た。故に工業生産品の販路は梗塞せられ、翌一九二三年には原料危機に直面した。蓋し交通は破壊損傷し、労働者及企業者(事業管理人)は餘剰生産に努めざる爲め原料の激減を來し貯藏原料は財政難、勞銀支拂不能又は停滯より労働者の盗用に會ひ又原料濫費となり、此處に原料の大不足を告ぐるに至り、斯かる状態は惹いて物價高、生活難を甚だしからしむるに至つた。

一方貨幣經濟の方面を見れば新經濟政策實施以前に於ては貨幣經濟は許されなかつた。尤もソヴェート紙幣はあつたが、之は單に政府の支拂用具として存在した丈で、流通の範圍は極めて狭少であつた。然るに新經濟政策實施後は私的資本の一部的許可と商業の復活とに依り、從來の政府支拂用具としてのみならず、交換手段としての貨幣の必要が生じて來た。而してこの要求に應ずる爲めに政府は不換紙幣たるソヴェート留紙幣の増發を行ふより外はなかつたが之が爲め紙幣の價値は下落して次表の如くなつた。



一金留に對するソヴェト留紙幣平均相場

年 度	一金留に對し	年 度	一金留に對し
一九一八年	三三・三留	一九二一年	二六、五〇〇・〇留
一九一九年	二三〇・〇	一九二二年	一八二、七五三・〇
一九二〇年	三、一三五・〇	一九二三年	一九、七五五、〇〇〇・〇

斯くの如く暴落したるソヴェト留紙幣を以て到底國民經濟を維持し得ざることを知つた政府は、一九二二年十一月には國立銀行に對しチエルオネツツ留紙幣の即時發行權を聞へ、政府はこの新紙幣の流通を促進すべく努力したが新紙幣がその發行方法に規律あり、金準備の豊富なる事、將來に於て兌換さるべき事等の爲めに次第に信用を博し、不換紙幣にして且つ續々と増發せられるソヴェト留紙幣との間に多大の値開きを生じ、且新紙幣も之亦財政難による増發の爲めに價值の變動が相當大であつた。以上の如き亂脈な貨幣經濟の下にありては、總ての經濟機關の活動は不健全となり物價高、生活難、生活の不安、物資不足の聲を聞くのも當然の事であると云はねばならぬ。

乍然數年前よりの食糧不足は新經濟政策の實施によつて漸く二、三年後に至り熄み、食料、農産物、原料品は豊富となつた。而して之と反對に工業製品が諸種の事由によつて騰貴した事は前に述べた所であるが、遂に一九二三年十月一日に至り有名な缺型恐慌に見舞はれたのである。即ち工業品は農産物の約三倍餘に騰貴して都會と農村との經濟的連鎖を破壊するに至つた。この恐慌は主として前に述べた如く農産物が豊富に産するに、工業製品の増産が之に伴はなかつたが爲であるが、他の原因としては紙幣が新舊二種あり、舊紙幣は農村で、新紙幣は工業地都會にて流通し

て居つた爲め價值少き舊紙幣即ちソヴェト紙幣を取引に使用する農産品が、新紙幣即ちチエルオネツツ留紙幣を取引に使用する工業製産品に比し低廉なりし事、換言せば二種の貨幣が流通範圍を異にして存在したと云ふ事も與つて力があつたのである。この恐慌の結果は取引の減少、商業の不振、農産物の市場出廻難、購買力の低下等を惹起して遂に農民不平の聲となつて現はれた。茲に於て政府も農産品の輸出を奨励して農産品の價格を高めると共に、一方工業製品の價格低下に努力したる結果、漸次兩者の開きは縮小されて行つた。斯くて受難の一九二三年は暮れたが、翌一九二四年もサマラ地方を中心として大飢饉が襲來し、之に加ふるに政府の財政窮乏は全露生産工業の大部分を占むる國營企業の上に投げられて居た暗影を益々濃厚とした。即ち資金の危機來是である。一九二三年四月莫斯科に開かれた第十二回全露共產黨大會に於て、當時共產黨の重要地位を占めて居たトロツキの報告書の中にも資金危機の一節がある。即ち「吾人は一大危機、即ち工業原料の危機（一九二三年を指す）に遭遇した。今や又之より遙かに深刻なる第二の危機即ち資金の危機を迎へんとして居る。換言すれば我が工業設備は益々磨滅消耗せられつゝあり、之を新設備換へんとするには莫大なる國費を要するのである」と云つて居る。實は一九二三年以前よりこの資金危機の暗影は全露工業の上に見出され、一九二四年に至つて愈々急を告げて來たのである。勞農中央統計局の調査發表に従へば「全露生産工場の現在（一九二四年）破損、損傷せる部分を修理し又新しく取換ふるには約八億金留を要す」と云ふ、この金額の點より推察するも全露生産工場が如何なる程度に在るかを窺知することが出来る。而もこの工場復興資金も擲出の途なく又も紙幣の濫發に求めたのであるが、之が爲めソヴェト留紙幣の發行高は一九二四年一月に一千五



百四十五億留、二月に於て四千六百七十億留に達し、五月には實に七千億留を突破し、その流通總額は九億五千萬留を示したと云はれて居る。又チェルオネツ留紙幣發行高は一九二四年一月一日現在、二億七千二百九十萬留なりしものが、五月末日には六億留に達し、九月中平均は實に六億七千五百萬留の多きに上つて居る。斯くの如き紙幣の濫發に依つて一九二四年の資金不足を糊塗し、一九二五年を迎へたのである。

一九二五年四月には新商業政策の發布にて露國商工業は國營、組合、個人の三形態に分れ、相當資本主義經濟に復歸するものゝ如く見えたが、更に一九二六年九月に資金及び物資不足の緩和策として、所謂新々經濟政策の發布を見るに至つた。斯くし露國の産業は主義政策の變節、變色右傾右行の過程を辿り漸次直面の難關を経て一九二七年に入つたのである。過去に於ける復興は要するに大部分無理に無理を重ねたる結果なるを以て眞の復興であるとは云ひ難い。例へば工業復興の如き機械器具の酷使、機械器具の一時的修理、工業原料の徴發的仕入、製品の高價賣付等に依り今日の復興を見て居るのである。従つて國內的には生存力を有するも國際的には生存力の極めて薄弱な状態にある故に一度國營主義の貿易を廢し各國品と自由競争の立場に置けば露國工業製品は忽ちにして各國製品の爲めに壓迫せらるべき運命に在るものと云はざるを得ない。

### 第三節 改造時代

露西亞の産業は戰爭及び革命の洗禮を受け破壊混亂の時代を潜り、復興時代に入り今はその復興時代の末期に達し今や將に改造の時代に向はんとして居る。即ち國內重要工場中歐洲戰爭及び革命戰の爲めに軍需品工場化されたもの

が未だに戰時工業設備の儘改造されないものが可成りにある。又現在まで利用して來た工場は殆んど總てが帝政時代のものにして、現政府の手に依つて新設されたものは一部に過ぎない。一九二四年四月に開かれた第十二回全露ソヴェート大會に於けるトロツキーの報告に依れば「戰前及び戰時(歐戰)工業の設備は一九二三年四月に於てその七割五分が保存せられ、其内利用せられて居るのは一割七分乃至二割、多くて二割五分である」と云つて居る。一九二三年は露西亞産業が復興期に入つて三年目である。大體に於て當時の工業はトロツキー氏の報告せるが如き状態に在つたこの年は丁度露西亞工業が原料危機に遭つた年で、以後四年間自一九二四年至一九二七年は更に多くの困難と闘つて、從來利用せられなかつた工場を修理し(不完全乍ら)、又新しく機械を購入し生産機關の復興に努め、今日の復興状態まで漕ぎ付けたのである。乍然もとより此の復興の裏には各種の點に無理が多く、その前途には幾多障礙が横はつて居る、この無理障礙を取り去らない以上ソヴェート産業の眞の復興は到底望み難く、從來の跛行的産業組織をソヴェート國情に適合すべく改める事が刻下焦眉の急務なりと云はなければならぬ。



## 第二章 ソヴェートの財政

歐洲大戰勃發當時の露西亞の歳入は七割六分までは租税収入で、残り二割四分が國有財産及び國營事業収入であつた。そして全歳入の約八割を占める租税収入も大部分間接税、即ち消費税収入であつた。そして歳計は一般に歳入超過で、財政の堅實味を見せて居たが、亞いで露西亞革命内亂の勃發するに及び爾來常に歳入の不足を告げ財政状態は極めて不堅實となり、遂に次表に示すが如く不足額の歳出に對する割合が八割以上と云ふ驚くべき數字を示した。

歳	出	歳	入	不	足	不足額ノ歳出 ニ對スル割合 %
一九一三年	三、三八三萬留	三、四三一萬留	—	—	—	—
一九一四年	四、四五九	二、九六一	—	—	一、八九八	三九・一
一九一五年	—	—	三、〇〇一	—	八、五六一	七四・〇
一九一六年	—	—	—	—	四、三四五	七六・〇
一九一七年	—	—	—	—	五、〇三九	八三・五

【註】 歳入中ニハ戰時公債收入ヲ含まズ

この豫算の不足は主に戦費支出の爲めで、この不足額は大部分公債の發行及び紙幣の増發によつて補はれたこの紙幣の増發によつて補はれたる部分は一九一五年には不足額の三割五分、一九一六年には二割五分、一九一七年には七割三分である。而してソヴェート政府の成立後は國防費として巨額の支出を必要とした。然るに當時のソヴェート經

濟状態は經濟組織が破壊されたので、確實な基礎に豫算を建てるには、數年間は租税を徴收する事なく産業復興に専心するを必要とした。一方時態は斯くの如き猶豫を許さなかつた爲に政府は財政難に陥り、歳入の不足は總て之を紙幣増發に依つて補充した。又これはこの際に於ける唯一の財政彌縫策であつたのである。(單位百萬留)

歳	入	歳	出	不	足	紙幣増發	補充歩合
一九一八年	一五、五八〇	四六、七〇九	三一、一二六	—	—	三〇、四〇〇	九四%
一九一九年	四八、九五九	二二五、四〇二	一六六、四四三	—	—	一六九、一一四	一〇二
一九二〇年	一五九、六〇四	一一、二二五、一五九	一、〇五五、五五三	—	—	九四三、五八二	八九

一九二一年新經濟政策實施と共に財政状態の改善を企圖し安定せる通貨を以て豫算を編製した。その効果は翌一九二二年より現れ、一九二四年に至つて歳入不足より免がれた。次表は極東露、コーカサスを含んだソヴェートの財政状態を示せるもので一九二一年の數字は百萬紙幣留を以て表し、一九二二年以後は百萬金貨留を以て表はして居る。

歳	入	歳	出	不	足	紙幣増發	補充歩合
一九二一年	四、一三九、九〇〇	二六、〇七六、八一六	二一、九三六、九一六	—	—	一四、〇〇〇、〇〇〇	六三・八%
一九二二年	—	—	—	—	—	—	—
一九二三年	—	—	—	—	—	—	—
一九二四年	—	—	—	—	—	—	—
一九二五年	—	—	—	—	—	—	—
一九二六年	—	—	—	—	—	—	—



更に一九二七—二八年のソヴェートの豫算を見るに主なる歳入は直接税、間接税、消費税、運輸收入、郵電收入、國債公募等その金額は次の如くである。

直接税	八三七百萬留	運輸收入	一、六五〇百萬留
間接税	一、四六〇	郵電收入	一七三
消費税	一八四	國債公募	三六五

右に依つて見れば収入の大部分は矢張り租税であるが、その租税も間接税が主である。租税以外の最大の財源は運輸收入である。産業の回復と共に之等財源が増加する事は勿論でロシアの財政も益々堅實味を帯びて来たものと云ふべきである。この外國債の發行もあるが之はその額も比較的少にして、十數億の公債を持つソヴェート政府が今後の公債發行の不利なるは明かで自然非募債主義にて豫算を編製するに至るであらう。

### 第三章 ソヴェートの農業

#### 第一節 農業の復興

露西亞は衆知の如く農業國である。農業復興は總ての産業復興の基礎を爲すものである。而も戦時共產主義時代労働者が政治の中心となつて居たのに引換へ、現在に於ては農民が露國政界を左右する潛勢力を有し、全く政治の中心をなして居る。

一九一三年一月一日現在に於て、露國農民は全人口の七割七分一厘を占めて居たが、一九二七年一月では全人口の八割に達して居る。政府の施政方針もネツプ政策(新經濟政策)施行後は、中心をこの多數農民に置く様になつた。一九二五年に於けるトロツキー一派とスターリン一派の論争の跡を見るとこの間の事情が窺はれる。即ち新經濟政策施行後の農村には、大農(富農)、中農、貧農の三階級が生れた。之を見たトロツキー一派は之を資本主義化現象として猛烈にスターリン一派の幹部派を攻撃した。トロツキー一派の主張は「革命の基礎を工業無産階級に置け」と云ふのである。「斯くする事に依つて露國を救ひ世界革命に進む事が出来るのだ」と。之に對してスターリン一派は中心を農民に置く事に依り露國を救ひ、世界革命を成就し得るものであると反駁し、農民を保護指導したのである。當時露國の大勢はスターリン一派をして右傾的主張を餘儀なくせしむる状態に進んで居たので、スターリン派の採つた農民保護政策は着々成功し、農産は逐年増加して来たのである。斯くして全産業復興の原動力が産み出されて来たのであ



る。之に據つて見るも農業國たる露國がその大衆國民たる農民に依つて政情が動かされ、之に依つて産業の復興が望まれるかが肯かれる。今農村復興を示すべき一例として農村人口、耕地面積増加の跡を見れば次の如くである。

年	農村人口		耕地面積		一人當耕地	
	人口	面積	人口	面積	人口	面積
一九二〇年	一一〇・七百萬	六三・〇百萬	シヤーチン	〇・五七	シヤーチン	〇・四五
一九二二年	一〇九・一	四九・三		〇・四五		〇・五九
一九二四年	一一四・一	六七・六		〇・五九		〇・六二
一九二五年	一一六・八	七二・四		〇・六二		
一九二六年	一二七・七					

更に農産物も漸次增收を示し、一九一三年の穀類全生産高百十七億九百萬留に對し、一九二七年は百二十七億七千五百萬留(戰前價格にて)となつて來た。今左に過去六ヶ年間の穀類生産高を示せば次の如くである。

年	穀類全生産高		市場出廻高	
	生産高	市場出廻高	生産高	市場出廻高
一九一三年	一一・七九〇百萬留	三・九八八百萬留		
一九二二年	四・〇〇五			
一九二四年	八・八五八	二・九三〇		
一九二五年	九・五五〇	三・〇三九		
一九二六年	一一・三五〇	四・〇四七		
一九二七年	一二・七七五	四・三六三		

即ち右表の如く穀類の生産も逐年増加を示すと共に、一面農民の素質も保護政策施行の結果、一九一七年に於て富農と貧農の二階級に別れて居た露國農民は、一九二五年末には大農三、中農五七、貧農四〇と云ふ状態に變つた。尤も最近再び富農と貧農の二階級に分裂するのではないかと思はれる徴候が窺はれるが、夫は兎に角一時農産餘剰品の徵發、戦争及び革命に依る壯丁の死亡、工業及び貿易の不振による農具、種子の不足、共產主義の爲めに蒙る精神的饑饉の爲め、何時復興の緒につくか不明であつた農村が彼の新經濟政策實施後着々復興の實を擧げ得た事は露國にとり極めて喜ばしい事である。

### 第二節 主要農産物

穀物 露西亞の穀類は小麦、大麦、裸麥、燕麥、粟、蕎麥、玉蜀黍を主とし、これ等穀類の作付面積も、收穫高も他の農産品のそれに比し甚だしく大なるのみか殆んど壓倒的勢力を占めて居る。戰前農産物總作付面積約九千萬デシヤーチン(一デシヤーチンは我が一町一反四畝八歩)中穀類作付面積は約八千萬デシヤーチンに及び、革命内亂中もこの穀類作付面積は七千九百萬デシヤーチンを下らず、現在では殆んど戰前に復歸して居る。收穫高は之に反して大なる變化があつた。けれども饑饉の年を除けば四百萬布度(一布度は我が四貫三百六十匁)を下つた事がない。個々の穀物については多少の増減變化はあるが、作付面積のみにつき見るに次表の如く大體に増加して居る。(單位デシヤーチン)



	一九二三年	一九二四年	一九二五年
裸麥	二二,二九七,二〇〇	二四,三六九,四〇〇	二五,〇八四,〇〇〇
小麥	一一,六二四,九〇〇	一五,六四九,二〇〇	一七,九一〇,〇〇〇
大麥	五,七五四,四〇〇	五,七五七,七〇〇	四,九二一,五〇〇
燕麥	九,四九一,八〇〇	一〇,六六四,二〇〇	一〇,六四六,九〇〇
蕎麥	二,三二一,〇〇〇	二,四一六,八〇〇	二,四七七,一〇〇
黍	五,二五四,四〇〇	四,二六三,〇〇〇	五,一六九,五〇〇
玉蜀黍	一,五〇八,二〇〇	一,四三三,九〇〇	二,三八一,六〇〇
其他	九,六七五,三〇〇	一一,三一四,八〇〇	一三,八〇九,六〇〇
計	六九,九一七,二〇〇	七五,八六九,〇〇〇	八二,四〇〇,八〇〇

棉花もソヴェートの重要工業原料品である。これは中央亞細亞及びトランスコーカシアの特産物で、一九一〇年から一九一四年までの五ヶ年間の一デシヤーチン當り平均年産額はトランスコーカシアは千三百六十八英封度、中央亞細亞は二千二百六十八英封度であつた。棉花栽培面積は次表の如く一九二二年までは減少したが、爾來年々増加して居る。(單位千デシヤーチン)

年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
中央亞細亞	六四二	七三八	七五六	七七四	四七八	一三五

年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
尙中央亞細亞の棉花栽培面積は灌溉の便が開けると共に増加し得る可能性がある。	一三八	八九	一九四	一九四	一九四	四五四	六〇七
次に棉花收穫高を見れば次の如くである。							
一九一六年	二六〇,〇〇〇噸	一九二一年	九,五〇〇噸				
一九一七年	一四〇,〇〇〇	一九二二年	一一,〇〇〇				
一九一八年	三五,〇〇〇	一九二三年	四七,三〇〇				
一九一九年	一八,三〇〇	一九二四年	一〇〇,〇〇〇				
一九二〇年	九,五〇〇	一九二五年	一七七,五〇〇				

こゝに興味ある現象は棉花産出量の多寡と紡績業の盛衰が正比例して居る事である。戦前の露西亞紡績工場に於て年々四十萬噸の原棉を消費した。即ち現在ソヴェート共和國領にある地域のみにては二十三萬噸乃至二十五萬噸を消費した割合になる。それが一九一八年には僅かに四萬噸となり、一九一九年には更に三萬噸、一九二〇年には一萬五千八百三十噸と減少し棉花産額の減少と併行して居る。一九二二年には原棉消費量は三萬噸と回復したが、棉産額は九千五百噸となり、一九二二年の原棉消費量は六萬六千噸、一九二三年度十萬千八百九十三噸、一九二四—二五年



十八萬六千百十四噸と急激に回復して居る。この原棉不足は一九二二年までは貯藏品で補充し、以後は戦前の如く外國よりの輸入に仰いで居る。

亞麻 戦前露西亞は有名な亞麻の産地であつたが、戦争と内亂中は斯業の衰微著しく、その産額も大いに減少したが新經濟政策實施後は次表の如く顯著なる増産を示して居る。

一九一六年	二四五、〇〇〇噸	一九二一年	九一、六〇〇噸
一九一七年	一九五、〇〇〇	一九二二年	一一一、〇〇〇
一九一八年	一七三、〇〇〇	一九二三年	一一一、〇〇〇
一九一九年	七六、〇〇〇	一九二四年	一九四、〇〇〇
一九二〇年	九一、〇〇〇	一九二五年	二七四、〇〇〇

亞麻は始め一九一四年より一九一八年まで主として亞麻仁採取の目的で栽培されたが、一九一八年よりこの纖維を賣り始めてより其賣上高はその後六年間に八倍した。一九二三年にソヴェートのリンネル工業が復興して來たから、この大量の亞麻纖維を大部分消化してしまつた。即ち六萬三千噸を消化したるが爲めに、輸出高は一九二三年三萬四千餘噸に減少した。一九二三年は何も亞麻の不作ではなく、一九二二年に比し二割三分の増産であるのに斯くの如く輸出が減少したのは國內の需要の増加に基くものである。

大麻 大麻栽培業は世界大戰及び之に次ぐ内亂にも大なる打撃を蒙らなかつた。之は大麻が元來之を商品として販賣せんが爲めではなく、寧ろ自家用とするが爲めに栽培せられて居た爲めである。斯くの如き状態であるから年産三

十三萬噸以上あるに拘らず、僅かに五萬噸が國內工業に消化せられ六萬噸餘が輸出せられるに過ぎなかつたのである然し一九二四年には總産額二十五萬噸の内十萬噸が市場に出廻り、工業原料として消費せられる量が年々増加して居る。

煙草 ソヴェートに於ける有名な煙草産地はクバン、スクームクルイムの諸地方である。産額は一九二三年五萬六千四百噸、一九二四年五萬三千噸、一九二五年九萬六千六百噸であつた。

次に純然たる農産品にあらざるも之と密接なる關係を有する酪農品、畜産品につきて見るに次の如くである。家畜の數は未だ革命前の程度に達しないが、次表の如く一九二二年よりは著しく増加して居る。

	馬	牛	羊	豚
一九一六年	三一・五百萬頭	五〇・一百万頭	八一・二百万頭	一三・五百万頭
一九二三年	二一・四	四一・三	五六・五	九・四
一九二四年	二二・一	四八・七	六九・二	一七・四
一九二五年	二四・六	五一・二	七七・〇	一六・九
一九一六年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九二三年	六八	八一	七〇	七〇
一九二四年	七三	九七	八五	一二九

之を一九一六年を一〇〇として各年の歩合を見れば次表の如く回復の程度が明瞭となつて來る。



一九二五年

七八

一〇二

九五

一二五

バター 牧牛地方の重要物産の一である。一九一四年以前は年々約八萬三千噸のバターを輸出して居た。一九一三年一四年のバター生産高は、十五萬二千四百十六噸でその約半を輸出した。革命の爲めに本品貿易は一九一六年に全然止まり、一九二三年より僅かに輸出を見た。このバター製造業を發展せしむる爲めに、一九二四年七月に共同組合式のもの設立せられ、本品の製造、購買、輸出を調整して居る。一九二四年のバター出廻高は四萬三千五百五十噸であつた。

羊毛 戦前羊毛産地として濠洲と並び稱せられたが、露西亞は輸出國ではなく寧ろ輸入國であつた。一九一三年も羊毛輸入國中第六位を占め五萬六千六百噸を輸入して居る。そして輸出は僅かに一萬八千三百噸にしか上らなかつた。

今最近の露國羊毛産額を見るに次の如くである。

	上級品	下級品	計
一九二三年	四、八二三噸	二七、二〇〇噸	三二、〇二三噸
一九二四年	六、四五二	三〇、四一六	三六、八六八
一九二五年	七、六〇〇	三七、五〇〇	四五、一〇〇

この外ボルガ地方の羊毛即ちオルチンスカヤ羊毛が三千二百餘噸ありて、これが露國羊毛需要の四分の一を満す事が出来る。然しコーカサスに産する莫大なる羊毛は、露西亞國內の羊毛工場にて製織し得ざる爲め之を外國に輸出し

代りに蒙古、支那、波斯より羊毛を輸入して居る。現在露西亞の洗毛年産額は四萬噸とせられて居る。

毛皮 毛皮は露國の重要輸出品の一つで、而も毛皮採取業は前途有望なる産業である。現在の獸皮採集業者は従来より優秀なる武器を有し、中央政府及び地方當局の監督の下に秩序ある狩獵に従事して居る。又濫獲を防止する法令も設けられた。取引は主としてニジニノゴロツド及びイルビト定期市で行はれ、戦前はこの兩市場に年々二千三百萬枚集散し、その中七百萬枚を輸出して居たが革命後の數字は遺憾ながら知る事が出来ない。

豚毛 豚毛の主産地は露西亞と支那とであるが、最近支那の内亂が絶えない爲めに支那の豚毛業が衰微勝なるに露西亞の斯業は之に引かへて著しく發達し、戦前の状態に復歸して居る。豚毛の年産は約千八百噸と稱せられ、この約半が輸出せられ他は國內需要に充てられる。取引の中心地は矢張りニジニノゴロツド定期市である。

蜜蜂 蜜蜂の飼養は全露農家の副業となつて居る。戦前蜂蜜三萬三千餘噸、蜂蜜蠟三千九百餘噸を産したが、一九二二—二四年には蜂蜜二萬四千噸を産して居る。この蜂蜜の約三分の一は自家用に供せられ、市場へ出廻るのは残り三分の二である。蜂蜜蠟の方は一九二三—二四年に於て千四百四十噸を産して居り、その後蜂蜜は増加して居るが據るべき統計はない。



## 第四章 ソヴェエトの工業

### 第一節 工業の復興

ソヴェエトの農業復興が極めて自然的なるに對し、工業復興は不自然な道程を辿つて行はれた。即ち前述の如く現下露國工業復興の裏面には非常な無理があり、其無理に依つて今日の成績を挙げ得たのである。而もこの加重せられた無理が今や其頂點に達し、總て大改造を行はねばならぬ状態となつて居る。今次に此改造を餘儀なくせらるゝに至つた理由について述べて見よう。

露西亞現代工業の基礎は一八六〇年頃から一九一三年に至る約半世紀間に於て築かれたものと云ふべく、就中一八七〇年以後獨逸資本及び獨逸人の露國進出に依つて露西亞の工業は著しく促進された。即ち露國の工業が獨逸人によつて築かれたものと見てもよい位に露國工業の發達に貢献し、當に獨逸人は露國工業界の一大恩人なりと云ふも敢て過言ではない。

乍然翻て考ふるに獨逸人の露西亞進出は露國工業の跛行的發達を齎したものと云ひ得るであらう。即ち露國が歐洲大戰に参加するに及んでその工業界が大混亂を招くに至つたが、かくの如き混亂は蓋し露國工業の跛行的發達の證左なりと云ひ得べく、この點より見る時は獨逸人は露國工業界にとり非恩人であつたも見ることが出来る。乍然何れにしても獨逸人の露國進出が露國工業の發達を助長促進せるは事實である。今獨逸人が露國の工業界に何時頃から

進出し初めたか、而してどの程度迄勢力を擴げて居るかを見るに、其の進出の歴史は古くベートル大帝の時代からであるが、その最も顯著となつたのは一八七三年頃である。今資本百萬留以上の在露獨逸人經營會社の設立年度と其社數とを見るに次の如くである。

年次	會社數	年次	會社數	年次	會社數
一八七三年	一	一八八九年	二	一九〇二年	三
七五	一	九〇	二	三	三
七六	一	九一	二	四(日露開戦)	二
七八	一	九三	二	五	七
七九	一	九四(日清戦争開始)	一	六	五
八〇	一	九五	八	七	五
八二	三	九六	九	八	三
八三	二	九七	一三	九	五
八五	四	九八	一三	一〇	八
八六	三	九九	一二	一一	七
八七	一	一九〇〇	一一	一二	五
八八	二	一	三	一三	五

即ち一八七三年露國內に初めて資本金百萬留以上の獨逸人經營會社の設立を見、爾來年と共に其數を増加して來た



就中一八九五年から一九〇〇年の六ヶ年間と、一九〇五年から一九一三年の九ヶ年とが最も多い。この會社設立について興味ある現象は一八九五年と一九〇五年とを境界として激増傾向を示して居る事實である。

この現象は露國關稅條約が獨逸との間に極めて片務的に改訂せられた結果ではありはせぬかと思はれる。即ち一八九四年(明治廿七年)日清戰爭開始年度の四月二日に、露獨兩國間に關稅改訂條約が結ばれた。この時の改訂關稅條約は獨逸側に取り極めて有利なものであつた。元來露獨兩國間の關稅關係は險惡な状態にありて、一八九三年迄露國は獨逸の經濟的侵入を防止する爲め高率關稅の障壁を設け獨逸は之に報復的に之亦高き關稅を課し、全く關稅戰爭の状態にあつた。例へば露國が獨逸品輸入防止の爲め、高率關稅を課したるに對し、獨逸は一八九三年七月十六日より露國よりの輸入品に對し、報復的に五割の高率關稅を課したのである。露國は更にこの反報的手段として同月露國關稅局長の名を以て、獨逸船舶に對し露國各港を出入する毎に、毎二噸に付一留宛の運輸稅を突然追加徴收したのである更にフィンランド(舊露領)へ輸入さるゝ獨逸商品に對し、同じく一八九三年七月關稅附加稅五割を賦課徴收し、同年八月廿五日よりフィンランドの陸路國境通過の獨逸産乾草及び菓の輸入禁止を斷行した。斯くの如くして露獨兩國間の關稅關係は雲行悪く、互に關稅障壁を高くし、壓迫を續け合ふて居たのであるが、その結果一八九四年一月廿八日露國は勅令に基き露國大藏大臣をして一八九四年二月十六日露獨關稅條約案を上院に提出、同年四月二日獨逸に極めて有利な片務的關稅條約に調印せしむるに至つた。この片務的關稅條約の爲めに獨逸が露國に對し貿易上又企業上有利な地位を占むるに至つた事は掩ふべからざる事實で、假令斯くの如き事がなくとも農業國たる露國と工業國たる獨逸

との通商關係は、後者に有利で、前者に不利を齎すべき事は明かである。露國に工業國たる獨逸を控ふる露國として、幼稚な自國工業を保護する爲めには勢ひ關稅障壁に依る外良策がなかつたのである。然るに露國が自國工業保護の目的を以て設けた對獨關稅障壁を撤廢し、而も自國工業を壓迫する片務的關稅條約を敢へて結ぶに至つた點に徴し一八九四年の露獨關稅條約締結の裏面には、何物かの潜在せる事は明かに窺ひ知られるであらう。而して之が効果は忽ちにして現はれ、其後獨逸の商品、資本及び獨逸人の露國侵入は極めて容易に且旺盛となり、その地理的關係、混淆せる人種的關係及び非凡なる工業的天稟を有する獨逸人の露國進出は益々促進されたのである。かくて獨逸人は工業界に金融界に、將交通事業に手を染めざるものなく、遂に斯業を中心とする一大勢力を作るに至つたのである。蓋し戰前露國産業を知る爲めには各國の對露投資中特に獨逸資本の研究を以て最も必要とする所以も亦茲に存するのであらう。

戰前一九一三年末に於ける外國資本の對露投資額は約百億留に達し、内約六割は獨逸の投資額であつた。而して獨逸資本投資の特色は「露國生産業への侵略」即ち露國産業を擧げて自己の掌中に收めんとする點にあつた。従て投資方面も他の各國の夫に比し異つて居るが、之に反し英、佛、白、米等諸國の投資は自國貿易の發展、投資額に對する應分の報酬を目的とするに在りしため、投資方面も獨逸の夫とは大いに趣を異にした。

獨逸資本は露國生産業への侵略を目的としたるを以て、漸次露國の重要工業に向つて喰ひ入つた。例へば全露電燈及電氣事業總資本の八割五分は獨逸資本で占められたるが如き、化學工業に於て四割、瓦斯事業に於て七割二分迄が



獨逸資本によつて經營せられたるが如きは其の最も顯著なるものであるが、統計上獨逸資本たる事の明確なるものを摘記し、事業別に獨逸資本の活躍振りを示せば次表の如くである。(一九一三年末現在)

事業名	投資額	事業名	投資額
電燈電氣事業	九七、四五〇千留	金屬工業	二九、四五〇千留
電氣工業	四九、〇五〇	機械工業	二〇、二四〇
鐵、亞鉛鑛業	一、四八〇	化學工業	一六、六一二
冶金工業	二八、一七〇	都市電氣事業	五〇、〇〇〇
瓦斯事業	一五、〇二〇	獨逸系露人ノ 會社ニ投資額	六〇、〇〇〇
石炭業	三〇、三四〇	ポ―ランド方面 ニ於ケル 同	五八、一三〇
石油業	六〇、〇〇〇	市債ニ對スル投資	二八一、七〇〇
鐵道投資	六七八、八四三		
合計	一、四七六、〇三五		

【註】此外國債に對する投資額を加ふれば獨逸の對露投資額は約六十億留に達する。  
尙獨逸を除く外國の投資状態を見れば次の如くである。

事業別	投資額	事業別	投資額
瓦斯事業	一七、八三二千留	市街經營	三九、〇七九千留
石炭業	三九、二四一	金屬工業	六六、五九八

礦業	七四、六一六	機械工業	二八、二二二
冶金業	七、六〇七	織維工業	二九、四七四
運輸業	七、八一〇	其他	八四、六八二
合計	三九五、一五一		

【註】此外國債、市債等を加ふれば約四十億留に達する。  
以上掲げたる所により外國對露投資の大勢が察知し得るべく、假令之が投資額の實數に比して多きに失するにしも、之によつて外國資本が露國經濟界を左右しつゝあつた事實だけは十分に認め得るであらう。

然るに斯くの如き産業界に對する外國資本の根深き勢力に加ふるに、露獨間に於ける片務的關稅條約による獨逸の貿易上に於ける優勝は遂に露西亞産業をして跛行的發達を見るに至らしめたのであるが、時恰も彼の歐洲大戰の勃發に遇ひ、露國の參戰するに及んで在露獨逸人經營の事業は休止し、或は事業經營の才に乏しき露人に讓渡せられ、遂に獨逸資本の流入は停止し、在露獨逸人は一齊に引揚げてしまつた。而してこの引揚獨逸人中には露人經營工場の技術者又は管理人として露西亞工業界に重要視されたもの多く、從て獨逸人の引揚は直ちに工業界は勿論一般産業界に非常な衝動を與へたのである。尤も獨逸人以外の外國人經營事業は、一時戦争と獨逸人企業の休止、閉鎖等により好影響を受けたるも、露國財政の窮乏に伴ふ重稅賦課、徵發的製品の安値買上げ等の爲め、事業經營の圓滑をかき奪て引揚又は休止を餘儀なくせしめられたのである。



亞いで革命に際會して外國人企業家は續々本國に引揚げ、露人の資産階級例へば工場主、鑛山主、地主、鐵道所有者、牧場主さては技師、技手、學者等の海外に亡命するものその數多きを示した。

クイブシエフ氏の露國ツラスト調査報告書の一節に「幾多のツラストが窮境に陥り、非經濟的狀態にある罪の大部分は、ツラスト幹部員の選擇當を得ず、且つ不注意であつた事に歸する」とあるが、之は寧ろ選擇を誤つたと云ふよりもツラストを支配すべき人物が無かつたと云つた方が當を得て居ると思はれる、換言すれば革命の爲めに支配的才能に長じた人物が國外に去つたが爲めに經濟機關の統制に適する人物が無かつたのである。勿論支配的才能の持主が全部國外に去つた譯ではないが大部分逃走した事は否めない。トロツキーは第十二回全露共産黨大會に於て「ツラストを検すれば檢する程、共産黨中央委員會の權威ある委員が檢すれば檢する程ツラストを左右する支配者の素質が劣つて居る事が明瞭に認められる」と叫んだが、實際ツラスト支配者に限らず、革命後の全露國經濟界は、各種經濟機關を統制すべき支配的人物の極端なる拂底に憊んだのである。

革命より現在までに於けるソヴェート各機關の首腦者を見るに、工場と云はず、金融機關と云はず交通機關、商務機關と云はず、その首腦者の大部分は共産黨員を以て占められて居る。勿論共産黨員と雖も經濟機關の支配的才能所有者が無いと云へないが、大體に於て其の多くは革命戰術には長じて居ても經濟戰術には疎いものが多い。云ふ迄もなく政治にせよ、外交にせよその人を缺いては何事も出来ない。露國は革命によつて人を失ひ、殊に支配的才能を有する人士を失つた。中央統計局の發表する所に依れば、一九一三年末現在に於ける露國の全熟練工數を一〇〇とす

れば一九一八年より一九二〇年の熟練工數は二五—三〇といふ狀態に減じたと云ふ事である。職工にして既に斯くの如きであるから技師階級者の海外逃亡、歐洲大戰及革命動亂に依る死亡數も多かるべく、かくて露國工業復興に際して優秀なる指導者を持たない事は復興を困難ならしめる根本原因であると思ふ。乍然更に歐洲大戰及び革命戰による復興資金の缺乏、露國工業が外國資本及び工業の爲めに跛行的發達を遂げて居た事、工業復興の先驅者たるべき農業復興が豫期通りに進まず、餘剰生産少なき事及び革命戰にて多くの工場を破壊焼失せる事乃至は共産主義其物等も亦露國工業の復興を妨ぐる原因たることは争ひ得ない所である。

露國工業はかゝる障害に禍され、かゝる困難に逢着し、漸く復興期に入りて僅かに七ヶ年を経過したに過ぎざる有様である。従て露國工業が復興困難に憊むのは當然の趨向と云ふべきであるが、その裏面に大なる危機を孕みつゝあるも、兎に角無理に無理を重ねた結果、漸く或程度の復興を示しつゝあるは否み難き所で、最近露國中央統計局の發表する所に據れば、全露國工業生産額は一九二二—一九一三年度 露西亞の年度は十月に始まるに比し次表の如く復興の跡を示して居る。

年 度	全露工業全生産額	生産割合
一九二二—一三年	四、四五—百萬留	一〇〇・〇〇%
一九二一—二二年	一、三六九	三〇・七〇
一九二〇—二一年	三、三四一	七五・〇六
一九一九—二〇年	五、〇三八	一一三・一八



一九二五—二六年 六、九二三  
一九二六—二七年 七、八五五

一九二五—二六年 一五五・五三  
一九二六—二七年 一七六・四七

【註】即ち一九二一—一九二三年度の一〇〇に對し、一九二六—二七年度は一七六、四七を示し、戦前状態に復歸したのみでなく露國の工業が極めて良好なる現状にあると見られるが、尤もこの數字は之を率直に信認する譯には行かない。即ち一九一八年以後の露國統計は、對内外政策上人爲的加工が施され居るからで、例へば露國共產黨員の數は一九一七年以後激減し一九二七年には三十一萬五千人(内純黨員二萬五千人)となりたるにも不拘、尙百二十萬人ありと發表しつゝあるが如き有様で、露國の統計が全部改竄せられて居ると斷言出来ないが、之を見る時は注意が肝要である事を忘れてはならない。

更に露國工業の復興を示すべき部分的材料について見るに、一九二三年を一〇〇%とし、石炭は一九二七年度上半期に於て一〇五・六%、鋼鐵は八三・七%、鉄鐵は七一・三%の増産を示せるを初め、一九二五—二六年度に於ては煙草工業は七八・〇%、ゴム工業は九二・八%、木綿工業は九四・七%、燐寸工業は二四・九%、製麻工業四六・九%、製紙工業八二・九%と何れも相當復興の跡を示して居る。

要之、露國工業は一九一四年より一九一七年頃に於ては主要諸工場が多く軍需品工場化し、一般國民需要品の供給が困難に陥り、次の革命動亂時代に於ては製造工場が廢業、閉塞、破壊せられ、就中この時代の末期たる一九二二年初頭即ち新經濟政策施行直前に於ては最も悲惨なる状態を呈した。即ち製作機械器具、燃料、原料、資金の大缺乏を告げ、工場殆んど全部が休止状態に入り何百萬と云ふ失業者を出したのである。それから二ケ年を経過した一九二三年にはソヴェト政府當局が工業復興に全力を注ぎ、政府は農業餘剰生産を見越して多くの復興材料を外國に注文

したが、農業の餘剰生産少なく從て輸入の決濟つかず、遂に紙幣の亂發により決濟したと云ふ氣の毒な失敗を重ねた年であつた。又この年の露國に於ける工場設備は戦前の七五%位が残されて居り、この内利用されて居る工場は一七%乃至二〇%であるといふ状態であつた。其の後四ケ年間に於ては主として前記の残存工場に手入れしてそれを酷使する事に依つて一九二七年の復興成績を納め得たのである。露國の工場設備は何れも古く、殆んど總てが獨逸式と云つてよい位獨逸化されたものであるが、現政府の採用せる工場設備の米國化には幾多の障害があり、是等は順次取換へられる時が来るであらう。假令米國式のものに代へられずとも新しい能率の高い機械に代へられやう。そして設備も漸次現代化されるであらう。

## 第二節 工業の三體様

ソヴェト露西亞は新經濟政策實施後工業國有制度の原則は破壊せられ、その分野は大體(一)國有工業 (二)協同組合工業 (三)私營工業の三種となつた。勿論新經濟政策以前にも、國有工業以外に小規模工業及び手工業も存在して居つたが、新經濟政策實施と共に國營を私人又は共同團體の經營に任すよりも有利とするもの及び原料其他の生産手段に保證されて居る大企業のみを國營とし、大規模組織を以てするときは不利を招くが如き工業は私人又は共同團體の經營に任すこととなつた。而して國有工業にはその一部に經濟的採算主義を適用し、市場需要商品生産を許すこととなつた。從て現在の國營工業は(一)市場の需要如何を論ぜず國家豫算によつて計畫的に經營される工場 (二)銀行の融資を受け市場の需要生産をなす工場(二體様)となつた。



以上の内豫算に依つて營業する國營工業は、豫算の許す範圍に於て一定商品の生産に従事するのみにして、之が損益の如何は問題とするところではないが、銀行から金融を受けて生産に従事し、市場需要品の生産に従事する國營工業にありては利潤を擧げる事が必要であり、又他の國營工業製品と市場に於て競争する必要が生じて来る。故に之等無益の競争を避け、國營工業全部の經營の安全を計る爲めに企業合同が必要となつて来る事は當然の趨向として首肯せられる。こゝに於て一九二二年九月十二日附の企業合同(ツラスト)定款例に次いで經濟的採算主義に基いて經營する國有工業に關する最初のツラスト法規は一九二三年四月十日に整備せられ、國有企業の合同(ツラスト)は法人として國家より認めらるゝ事となり、其債務につきては國家は責任を負担しない事となつた。

工業のツラスト組織に次いでシンヂケート組織が現はれ初めた。云ふ迄もなく企業合同(ツラスト)は國有工業の統一を目的として設定せられたものであるが、其結果は豫期に反し、企業合同に依つて相互間の不統一を惹起した。即ち市場消化力が薄弱なるため企業間に販賣上の競争を生じ、之が仕入の競争となりて遂に市場を攪亂するに至つた爲め、應て各企業を驅つて或程度迄の協調を保たしむる必要を生じ、茲にシンヂケート組織の氣運が醸成さるゝに至つた。

國有工業は以上の如き現状にあつたが、國有工業以外の協同組合工業は政府の保護と奨励とに依つて發達したもので之を手工業的協同組合工業と、消費組合工業との二に分たれる。前者は數百乃至數千萬の多數小規模製造業者の結合せるもので、労働者階級の共同生産機關で後者は消費組合それ自身が組合に於て消費する商品を生産するものである。

る。

尙この外に私營工業としては小手工業、小工業、個人所有、株式組織等の私有工業と賃貸工業とがある。賃貸工業の客體は大小工業其種類を問はないが、國家の經營に保留するを有利とするもの、經濟的採算主義に依り國家が經營せるもの及び其の賃貸に依つて大工業の作業に影響を及ぼすものを除き、其他の工業經營權を自由契約のもとに、十ニケ年間個人、會社、協同組合又は其工業の主管以外の國家機關に賃貸せられるものである。故に之等工業は私營であるが國有工業の中に包含せらるべきものである。賃貸料は一九二二年より年生産額より現物割前を徴收して居たが一九二二年十一月十四日附人民委員會令にて此に代ふるに右に相當する金留を以てした。

又私有工業は法律に規定せる人數の範圍内の小工業、及び法律に規定せる人數以上にても政府より利權を受けて私有のものとしたる工業である。即ち中工業は縣執行委員會の特別許可を要し、大工業の場合には其都度一定の手續を経て特別利權契約を結ばねばならぬ。私有工業にもその所有者は個人、團體、會社等がある。私有の小工業は十八人乃至二十人の労働者を使用し、法定の範圍内に於て製品を販賣し、原料、設備品を購入し得る事となつて居る。私有の手工業は小集團又は大集團をなして聯邦全土に散在して居る。その手工業者の數は約百八十七萬一千人と稱せられその生産高は年五億留程である。



### 第三節 主要工業の現状

#### 第一 金 屬 工 業

鐵及び鋼鐵 ソヴェートは鐵の埋藏量甚だ多く、主産地は南部ウラル地方及び中央部である。戦前の統計に據ればクリボイ、ロツグ地方のみにても地下七百呎より二億噸の鐵鑛を産し、尙深掘すれば莫大なる原鑛を産するであらう。この原鑛は平均六二乃至六七%の鐵と九%の硅酸及び〇・〇三乃至〇・〇六%の磷を含有して居る。戦前露西亞の總年産額は一千萬噸に達しその内六割はクリボイ、ロツグ鑛山より産出するのである。本鐵山の産出量の八割は南部の製鐵所に送られ、残りはニコライ港より、又は陸路輸出せられたもので、輸出は年々約百二十萬噸乃至百三十萬噸に達した。一九一九年及び一九二〇年には鐵の産出皆無であつたが、一九二一年には九千三百噸、一九二二年には十萬噸、その翌年には十六萬噸、一九二四年度には百二十五萬噸と年々増加して本工業回復の跡を示して居る。ウラル地方の本工業も最近著々復興の度を進め、一九二二年度の鐵鑛産額は五萬三千五百噸、その翌年度は二十一萬四千噸、二三年度は四十三萬九千二百四十一噸、一九二四年度は前年度に倍加して八十六萬三千三十九噸の産額であつた。今最近のソヴェートの鐵鑛産出量を示せば次の如くである。

ウラル地方 中央部	一九二三年度		一九二四年度	
	産出量	増加歩合(前年比較)	産出量	増加歩合(前年比較)
ウラル地方	四三九、二四一噸	八六三、〇三九噸	八六三、〇三九噸	増 九六%
中央部	三一、六五〇	三四、四三二	三四、四三二	八

クリボイ、ロツグ 橋 東	一九二三年度		一九二四年度	
	産出量	増加歩合(前年比較)	産出量	増加歩合(前年比較)
クリボイ、ロツグ	四三六、六九九	一一、二七九、二〇一	一一、二七九、二〇一	〃 一九二
橋 東	六、二三三	一九、五二七	一九、五二七	〃 二二三
計	九一三、八三三	二、一九六、一九九	二、一九六、一九九	〃 一二七

鐵 鑛 ソヴェートの鉄鑛製産高は一九二四年度に於て百三十萬三千六百一十一噸にして、前年の六十六萬五千五百五十六噸に比し倍加して居る。戦前露國の産額はポーランドを除き四百十餘萬噸であつたから一九二四年度の産額は丁度三割以上に當つて居り之亦急速の回復の跡を見せて居る。一九二四年度に於ける全ソヴェートの熔鑛爐の数は四十三にして前年は三十六であつた。

銀 ソヴェートに於ける主なる銀鑛はシベリア、ウラル、コーカサスに在り、戦前の銀産額は年々増加の一途を辿り、一九二二年遂に四萬英封度の最高レコードを作つたのである。銀産地中最も有名なるはアルタイ山にして同山には又金、銅、鉛、及び亜鉛を産出する。一九二二年のシベリアの銀産額は一萬五千五百八十八英封度であつた。ウラルの銀は副産物としてのものであるが、その量は相當量に上り一九二二年には一萬四千四百英封度あり、シベリアの産出量に比して僅かに千八百八十八封度少ない丈けである。コーカサスには僅かに一ヶ所の銀製煉所あるのみにして一九二二年には全露國の四分の一即ち九千六百十二英封度を産出した。この外キルギスステップにも銀坑あるも採掘法至極幼稚にして産出量も不定である。

金 戦前露西亞は世界第四の産金國として知られて居た。その主産地は東部、及び西部、中央シベリア、ウラル地



方並にコーカサスで、東部シベリアにはバイチム鑛山あり、同鑛山より全露産金の約二十五%を産出する。

**白金** 戦前ウラルの白金にて露西亞が全く世界の白金専賣局の様思はれた。戦前十年間の平均年産額は一萬一千五百封度で、其他の白金産地即ち英領コロンビヤは漸くその約七%を産出するに過ぎない有様である。戦時産額は急速に低下して次の如くなつた。(單位トロイオンス)

一九一三年	一五七、四五三	一九一七年	九八、四七四
一九一八年	四三、一八一	一九一九年	三九、四九五
一九二〇年	一一、三二三	一九二一年	六、八三六
一九二二年	二二、五〇〇	一九二三年	三〇、〇〇〇
一九二四年	四〇、〇〇〇		

右の如く一九二二年を最低として其後漸次回復して居る。

**水銀** 主なる世界の水銀産地はスペイン、米國、埃國伊太利及び露西亞である。一九〇八年の統計ではスペインが三萬一千三百八十二瓶、米國が一萬九千七百五十二瓶、オーストリーが一萬六千八百十四瓶、伊太利が二萬百六瓶ハンガリーが、二千二百八十九瓶、ロシアが千三百八十九瓶であつた。

ソヴェートの水銀主産地はウラル、コーカサス、エカテリノスラフ、コーカンド、トルキスタンの諸地方である。エカテリノスラフ州のニキトフ鑛山には八千三百噸の埋藏量があると推定せられて居る。

一八八七年より一九〇七年迄には約六千五百六十九噸の水銀を産した。ダゲスタンには二大鑛山があり、ウラルにて

は金と共に産出するものである。戦時中國内の需要を充足する爲めに諸所に於てはこの事業を繼續して來たが、大戦の末期及び革命戦の中にはこの工業も大打撃を蒙つた。然し徐々に回復して現在ではその産額が次表の如く戦前よりも多くなつて居る。

一九一三年	一、七五四布度	一九一七年	四、五九四布度
一九一九年	九四一	一九二一年	二八九
一九二二年度	二、五〇一	一九二三年度	四、〇二六

而して一九二五年には水銀月産が六百布度を超過する様になつた。水銀鑛の總産額は一九二二年度一萬一千三百二十五噸、翌二三年度一萬八千九百九十一噸であつた。

**銅** 戦前露西亞の銅主産地はウラル、コーカサス、キルギスステップ、及びシベリアであつた。アトラス銅山の原鑛は最優良のもので三〇%の銅を含み、品質第二位にあるものも一〇%を下らない。スバスキイ銅山のもは優良のもので一五%乃至二〇%を含み、其他のものも七%を含んで居る。

この工業の重要な事は銅含有二%乃至二・五%の鑛山にても優に採算出来る事を以て見ても肯かれる。一九二五年迄はウラルが採銅を繼續せる唯一の地方であつたが、一九二五年には從來休業して居たコーカサス、スバスキイ及びキルギスのアトラス工場まで操業を開始した。ウラルに於て最も好成績で營業せる所はパーキセツト地方とキンチム地方でその他の地方は一九一八年までは操業して居なかつた。一九二一年十二月にウラル銅ツラストが成立し、こ



のツラストはバーキセット、レチンスク、サイサート地方の總ての鑛山を包含して居る。而してこのツラストは一九二二年度の後半より操業し次の如き成績を擧げて居る。

	原鑛採掘量	銅製煉高
一九二一年度	一三、二六六噸	八五〇噸
一九二二年度	六二、九六六	一、七〇〇
一九二三年度	一一〇、二七一	二、九七五
一九二四年度	一七〇、七五一	六、七九二

銅の生産高が目立つて増加しないのは需要が少ないのと値が安い爲めで、市場には尙革命前の在庫品を有し、電氣事業の大需要に應じて行けるからで、總て市場にも在庫品の拂底と、更に電化事業の發達につれて銅の市價は騰貴し生産高は急に増加する事になるであらう。故に當ツラストに於ては向ふ五年間に年産額四十萬布度にする爲めの増産計畫を建て、最高國民經濟院よりは四百二十萬留の長期債の募集を許可した。

ウラルの主要銅山の調査に據れば二十二億二千六百五萬布度の銅鑛を有し、之より少くとも四千二百萬布度の銅を製する事が出来るとの事である。恐らくはウラルの銅全埋藏量は五十一億三百萬布度はあるであらう。而してこれは將來のウラル銅工業の發達を約束するに足るものであらう。

マンガン マンガンは製鋼用、化學用、硝子製造用、電氣工業用として甚だ有用なものであるが、就中製鋼用として最も尊重せられるものである。現在にてもマンガンを對する需要はその供給量を超過せる爲め、近き將來に於て必ず

やマンガンの大饑饉に遭遇するであらう。世界第一のマンガン鑛區はバチュームより百二十六哩のチャチュリーの附近にある。そこにはホエカテリノスラフのニコポリ、ポンドリヤ及びウラル地方のマンガン富鑛區がある。

戰前露西亞は世界の主たるマンガン産出國にして舊に自國工業の需要を満すのみならず、亦外國に多量輸出して居た。一九二二年に於けるチャツリー地方の産額は八十三萬六千五百三十三噸にして之が世界總産額の三一・七九%を占めて居た。戰時中はその産額に減じて一九一八年には僅かに二萬六千三百八十三噸になつた。然しその後直ちに回復の跡を示し、一九二三年度には産出量は三十二萬三千二百噸に増加し、その翌年度は三十三萬五千九百九十四噸になつた。南部露西亞のニコポリに於けるマンガン鑛の産出量は一九一三年に於て約二十七萬噸で、この八割が南露西亞金屬工場にて消化され、殘二割が獨逸に輸出せられた。この鑛區に於ても革命内亂中はマンガンの生産殆んど熄み、一九二一年に至り六千八百噸を産したのみであつたが、一九二三年度に於ては早くもそのマンガン鑛産出量は十七萬三千五百三十一噸、その翌年度はこれに倍加し、三十八萬二千二百二十九噸に増加した。

石綿 戰前露西亞に於ける石綿産出量は加奈陀を除けば第一位にあつた。次表は一九二一年に於ける諸國の産額である。

加 奈 陀	五、三〇〇、〇〇〇布度	露 西 亞	九五〇、〇〇〇布度
米 國	四一五、〇〇〇	ケープ植民地及	九二、〇〇〇
ローアシア	一八、〇〇〇	トランスバール	



戦時中加奈陀の石綿産額は倍加し、ローデシアの産額も甚だしく増加した。ウラル産の石綿は品質から云つても加奈陀を除き第一位にあり、耐火力も強いが、加奈陀産のものに比して稍々脆い嫌ひがある。

ソヴェートの石綿産額は未だ充分に探検せられて居らず、従来知られたるもの、中主要なるものはウラル、ユリヤンカイの二産区及びサヤン山脈であるが、就中ウラルのものは最もよく開發せられた産区である。一九一一年のウラル全體の産額は九十四萬六千九百三十七布度にして、一九一三年には百三十七萬三千布度であつた。現在ではウラルの全石綿工業はアラビエフスキー地方を除き、アメリカの會社に利権として貸與せられ、ウラル石綿ウラストに依つて支配されて居る。而してこの石綿ウラストは一九二一年十一月に組織され現在では營利的經營をなし、一九二三年度の産出は石綿二萬七千四百八十八噸、一九二四年度には之に三倍し、九萬六千五百二十五噸である。

最も重要な産山はコーカサスにあり、戦前鉛産全産額の九割五分までは此處で採掘せられた。シベリヤに於ては主たる産区はウラチオストツク、イルクツク、アルタイ等の附近にある。革命戦中は殆んど生産は殆んどやみ、一九二二年に至り四千八百五十噸の鉛産の産出あつたのみである。然し一九二三年度にはその産額は七千四百噸に増加し、引續き一九二四年度は二萬三千噸に増加した。

雲母 以前露西亞は世界に於ける雲母の唯一の産地であつた。遠く一六八一年には露西亞は和蘭に九萬二千八百八十英封度、英國に八萬六千四百英封度、北米に一萬八千英封度の雲母を夫々輸出して居る。然し乍ら雲母工業は年と共に衰微してしまつた。その後各地に於て調査が行はれ雲母産区が殆んど全國に散在して居る事が判明した。即ち

アーチヤンゲル、コラ半島、ボリン州黒海の海岸、ウラル、シベリア等である。その中戦前規則的に事業を繼續せしものはシベリヤのカンのみで、その産出量は一九一三年に百九十布度であつた。現在ではアーチヤンゲルに於て雲母工業行はれ、年産額約千布度である。

岩鹽 露西亞には陸鹽豊富にして、湖沼、鹽井より採取し岩鹽としても採取せられる。ソヴェートではドネツ盆地がその最大産地で、湖鹽は主としてベルム及びアストラカン州、バクマツト、スラフイヤンスク地方である。又西部シベリヤに於ても夏期干魃する多くの湖沼より鹽を採取し得、東部シベリアでは井戸及び岩鹽産区より採取する然し製鹽業は戦前に比し發達して居ない。即ち一九一三年に産額二百三萬三千六百六十六噸にして斯業に従事せる労働者二萬二千なりしものが一九二〇年度には産額七十三萬六千八百八十三噸、労働者數一萬七百八十七人となつて居る。一九二二年度には産額の増加はなかつたが、一九二三年度には産額百九萬噸、一九二四年度百三十五萬噸と増加して居る。一九二三年度の労働者は五千八百五十八人なりしもの、一九二四年度に五千七百九人と減少して居る。過去五十年のソヴェート鹽消費量は一人當り約二十七英封度で、これは工業用の分を合しての計算である。

農具 一九二三年度に於てソヴェート工業は千六百三十六萬二千留、一九二四年度に於て三千五百五十一萬四千留の農具及附屬品を製産して居る。農具工場には長期の金融の途なき爲め、危機にあつたが、一九二五年下半年よりはその販費方法が可成り有利に改正せられた。一九二二年に於ける農具製造工場は百九十八にして、その労働者數は二萬四千八百三十一人であつた。それが一九二二年には工場數二百六十八に増加し、労働者數は反對に二萬百九人に



減少した。一九二二年の農具及附屬品の生産高は三千八百六十一萬一千留だから一九二一年度の生産高は戦前の價格に於て五百五十六萬八千留となり、約一四・四％に當つて居る。現在索引車製造工場は二千車以上の注文を受けて居る程である。戦前露西亞に於て使用された農具の約半數は輸入品であつたとの事である。

機關車 次表は一九二三年度及び一九二四年度の生産高である。

	一九二三—二四年度	一九二四—二五年度	割合
新機關車	一四一	八八	四八％
機關車修繕(大修理)	一、七四五	三、七五一	二一五
" (中)"	四、六五一	六、三〇〇	一三五
新車輛	四三三	七五〇	一七三

鑛山業よりの需要増大せる爲め手押車の製造甚だしく増加した。

蒸氣タービン水力タービン 露西亞に於て蒸氣タービンが始めて製造せられたのは一九〇六年で、一九一四年には早くもこのタービン製造に従事する工場が七軒となり、一九一七年には斯業の行詰りを見た。一九二〇年にはベトログラード金屬工場が再び蒸氣タービンの製造を開始し、最初に戦時中及び革命中修理せず酷使せられた蒸氣タービンの大修繕をなし、一九二四年七月一日迄にこの工場に於て五百馬力より千五百馬力までのタービン三十以上の大修繕をした。そしてこの間にも多くの豫備品の製作に従事した。レイニングラード金屬工場のタービン製造部に於ては年々平均三千馬力のタービン四十を製造する事が出来、近き將來に於て一萬五千馬力以上のタービンをソヴェートの各工

場に設置する事が出来ると云はれて居る。

電氣機械 歐洲大戰まではこの工業は獨逸の工場と密接なる關係にて行はれて居た。即ち大部分の機械は之を輸入して居たのであるから歐洲大戰の勃發は斯業にとつては全く致命傷であつたが、昨今では漸く國內の需要の一部を満足する様になつた。次表は生産高を比較せるものである。

	一九一三年	一九二一年	一九二四—二五年度
高壓用機械	一三、六二三千留	一、七三四千留	九、三七二千留
低壓用機械	七、四五二	一、四三二	六、六二八
電線	二〇、七二三	三、六八一	四三、〇〇〇
蓄電機	二、六〇八	六五七	二、六九〇
電球	七一六	七六九	五、五〇〇
計	四五、二二三	八、二七三	六七、一九〇

然しソヴェートの電氣材料需要は供給額を超過せる爲め、多量を外國より輸入せなければならぬ。故に之に應ずる爲め擴張計畫を建て、將來の電氣事業の大發展に備へんとして居る。この計畫に依れば一九二五年度は生産高九千五百五十六萬八千留となる。一九二四年度の生産高は一九二三年度の四千百十萬留に比し六六％の増加を示して居る。又發電所は一九一七年に五百六十一であつたものが、一九二四年一月には百萬以上になつて居る。

## 二. 紡績業

紡績業は近年集中性を示し次表の如くになつて居る。



會社 職工 錘機	數	一九二四—二五年	
		數	一九二三—二四年ト比較
會社	一二七	一五一	增 一六%
職工	二五一、八〇〇	三六七、四〇〇	" 四五
錘機	四、七二〇、〇〇〇	八、四〇一、〇〇〇	" 七八
織機	一二五、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	" 六八

即ち右表に見るが如く會社數は一六%の増加であるが、職工數、錘數、織機數は夫々四五%、七八%及び六八%増加して大規模になりつゝある事が肯かれる。又綿糸、綿布、未織布等の生産高を見れば次の如くである。

綿糸 未織布 綿布	生産高	一九二四—二五年	
		一九二三—二四年ニ比較	増減
綿糸	一〇一、二〇〇噸	一八六、一〇〇噸	增 八二%
未織布	八七九、〇〇〇籽	一、五九七、〇〇〇籽	" 八五%
綿布	八三五、五〇〇籽	一、四九〇、四〇〇籽	" 七八%
戦前ノ留價ニ直シ	二二〇、二〇〇千留	四二四、六四二千留	" 八四%

紡績業は其後著しき恢復をなし毎年棉花一億留程の輸入をなしつゝある。

### 三、羊毛工業

羊毛工業も最近急速の進歩をなし、一億圓以上の年産あるも、尙國內需要を満すには稍不足の状態である。一九二

四—二五年の生産高を示せば次の如くである。

毛糸 未織布 毛織物	戦前ノ留價ニ直シ	一九二四—二五年	
		一九二三—二四年	増減
毛糸	一九、三〇〇噸	二七、六〇〇噸	增 四三%
未織布	三二、五二二籽	五三、五八一籽	" 六五
毛織物	二九、一四三籽	四九、二四一籽	" 六九
戦前ノ留價ニ直シ	七四、三六四千留	一一二、八六五千留	" 五二

毛織物の増産は著しいもので約倍になつて居る。この増産は職工の増加の結果である。工場は反對に幾分か減じて居る。即ちこゝにも大規模集中が行はれた譯である。

會社 職工 錘機	數	一九二四—二五年	
		一九二三—二四年	増減
會社	八六	八一	減 六%
職工	五五、一〇〇	六一、三〇〇	增 一一
錘機	三六六、〇〇〇	四八四、〇〇〇	" 三二
織機	九、二〇〇	一二、四〇〇	" 三五

### 四、リンネル工業

リンネル工業も大規模集中を企て、工場數を少くし生産費を低減せんとして居る。今次表を見れば工場は減り労働者は僅かに増加して居るが、生産高は著しく増加して大規模集中の効果を如實に物語つて居る。



	一九二二—二四年	一九二四—二五年	増減
會社數	五六	五四	減 四%
職工數	七〇,〇三七	七一,八五五	増 二・六
錘數	三二〇,六〇〇	三五五,九〇〇	増 一一
織機數	一一,六〇〇	一三,四〇〇	増 一六
糸生産高	三九,〇三八噸	五〇,〇一九噸	増 二八
リンネル生産高	一一四,〇五七平方米	一三四,四五二平方米	増 一八

五、亞麻工業

一九二二年度に於て工場數二十八、職工數七千六百九十人なりしものが一九二三年度には工場數二十六、職工數一萬一千百七十七人といふ數字を示して居り、生産高は次の如く大體に年々急激に増加して居る。

	一九二二—二三年	一九二三—二四年	増減
麻糸	七,九〇〇噸	一五,八〇〇噸	増 一〇〇%
麻布	四,五八二,一〇〇平方米	二四,四七八,四〇〇平方米	増 四三五
麻袋	七,五〇三,〇〇〇袋	一一,四四六,〇〇〇袋	増 六五
麻綱	六,七四六,三〇〇噸	六,七二九,八〇〇噸	減 〇・三
麻組	八三三,〇〇〇 "	一,一四八,〇〇〇 "	増 三八
麻紐	三,二八五,〇〇〇 "	三,四八三,九〇〇 "	増 六

殊に麻布の生産高の増加は驚くべき程である。これは工業が大規模になつたのによるものでもあらうが、又農業の復興が進んで原料亞麻を豊富に供給し得らるゝ事も大原因をなして居る。亞麻はソヴェートの重要農産品であるからこの工業の進歩は農村を潤はすであらうし、又農村にてこの亞麻栽培が盛んになればこの工業も發達する譯である。



## 第五章 ソヴェートの商業

### 第一節 商業の三體様

戦前の露西亞の商業は現在資本主義國家のそれと何等異なる所がないが、茲に問題となるのはケレンスキー内閣成立以後の事である。

一九一七年三月ケレンスキー内閣の成立後、自由商業は許されず、政府は人民に對する物資の供給調節の爲め、食料については穀物及び麥粉の專賣を強制獨占した。而してこの内閣が十月革命と共に瓦解してより一九二一年の春までは、總ての商業は國家によつて拘束せられ、商業の自由は全く認められなかつたのである。即ち國家のあらゆる商業は國家の經營に置かれたのである。國民は物資を國家機關より分配を受けねばならなかつた。然るに一九二二年新經濟政策實施と共に自由取引は認められ國家機關及び消費組合の經濟的活動又は商行爲が認められ、從て茲に物價と云ふものが現はれ、物資に貨幣價值が附けらるゝに至り、これと同時に農民は餘剰生産物の徵發を免がれ、購買力を生じ、工場労働者は生産高の一割までは直接食料品と交換出來ると云ふ有様で商業は漸く殷盛を示して來た。而して商業はその體様より見て(一)國家商業 (二)共同組合商業 (三)個人(私營)商業の三種に分類せられる。今之等の各機關につきその消長を見れば次の如くである。

機關數(一九二三年後半期)	取引高(一九二三年)		
	一、九六〇百萬留	一、三七〇	一一、二〇〇
國家商業機關	二九、三九五		
共同組合商業機關	一一二、八九五		
私營商業機關	三五九、八一八		
更に卸賣、卸小賣及小賣の各部に於ける之等三機關の勢力を見るに左の通りである。			
	卸賣	卸小賣	小賣
國家商業	七七・三%	三八・九%	六・六%
共同組合商業	八・二	一〇・七	二〇・〇
私營商業	一四・五	五〇・四	八三・四
	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
			全體
			二六・〇%

右表に見るが如く國家商業機關は主として卸賣の如き大量取引に、個人商業機關は主として小賣の如き小取引に従事し、組合商業機關はその中間にあり多少卸賣の方が多し。

次に之等各種商業機關の補助機關となるものに商品取引所、商業會議所及び定期市がある。商品取引所は商取引上非常に有力な地位を占め、その組織の如何に依つて國營、協同組合及び私營の三種に分類されるが、營業範圍は三者何れも同一である。取引所には取引所委員會が許可した取引所仲買人があつて、取引所内の商取引はこの仲買人を通して行はれる事になつて居る。

一九二四年一月より取引所内に競賣部と云ふのが設けられた。競賣部は取引所委員會委員の直接監督下に於て競賣



によつて商品を有利に販賣する機關である。賣手は取引所委員又は取引所指定出入者に限られ買手には制限がない。現在ソヴェートの商品取引所の數につき據るべき正確な統計はないがモスコイにある中央商品取引所を始め地方に五十數ヶ所設立せられて居るとの事である。一九二四年度の之等商品取引所の取引高は次表の如くであつた。

モスコイ商品取引所

一、五五四、八三五、四〇〇チエルオネツツ留

地方五十四商品取引所

一、二九八、三六三、六〇〇

商業會議所としてはソヴェートに次の數ヶ所を見る事が出来る。

露西亞東方商業會議所 モスコイに在つて波斯、土耳其、アフガニスタン、支那、日本等の東方諸國との經濟的接近

を助長するを以て目的とするものである。

アザールバイジャン商業會議所 波斯との經濟關係を促進せんが爲めに特設せられたものである。

海上商業會議所 この會議所は日本との貿易關係を進展せしめんが爲めの機關である。

西北州商業會議所 一九二一年に創立せられ商業會議所中重要視すべきものである。議員には國家機關、國家工業、

共同組合工業、私營商業等各機關の代表者がある。目的とする所は西北部と國內及外國市場との商業關係を助長し、

容易ならしめ、商取引の發達を調節し、地方の商工業の需要を按配するにある。

定期市につきては次に節を改めて説明する。

## 第二節 定期市場の復活

革命動亂中はこゝにいふ定期市場も事業を休止して居たが、一九二二年に復活し地方商業の一大機關となつた露西亞に於て最初に復活したる定期市場はイルピットの定期市場で、これが一九二二年二月に恢復した。次いでモスコイの全露聯盟市場の復活を見、一九二三年三月二十三日より四月一日更にあの有名なニヂニノゴロツドの定期市場の復活を見るに至つたのである。尙一九二二年に恢復した定期市場中主なるものバクー、ケフ同盟、カラコフクレストシエンスカイアの各市場を擧げる事が出来る。

こゝに所謂定期市場とは戦前の定期市に變らざるもので、最も代表的のものはニヂニノゴロツドであるが、毎年一回諸地方の商人が土地の物産を携行して集り、一定期間市をたて、各地の物産の取引をなす稍原始的のものであるけれどもこれが露國商業の重要な地位を占めて居るので、之に参加する商人には免稅及び運賃割引の特典が與へられて居る。

ニヂニノゴロツド定期市場 毎年八月一日より九月十五日まで開かれ、店舗の數は一九二三年には六百四十七、一九二四年には二千百七十七、一九二五年には三千百四十九であつた。この市に送られた商品は四百萬布度に上りその半は輸出せられる。取引件數は九百を超へ、取引金高は一九二三年三億七千八百餘萬留であつた。この市に於ては千留以下の取引を取扱はず、又個人間の私的取引も小賣取引もない。將又消費組合間の取引も見られない。取引せらるる商品は雜貨二七・五%、織物類二四・三%、陶磁器八・三%、皮六・八%金屬及金屬製品六%、藥、化學製品四%、毛皮及



羊皮三・四%の割合で、商人は全露は云ふまでもなく波斯、土耳其よりも集まつて来る。

バクー定期市場 バクーの定期市場はソヴェートとベルシャ間の物資交換をなす市場である。ベルシャの商人は主として露西亞の砂糖を買ひ、棉花、羊毛、敷物、米、乾果等を賣るのである。この市場は五月と六月の二ヶ月開かれ、一九二三年の總取引高は九百五十萬、一九二四年には六百四十萬、一九二五年には一千七百萬金留であつた。

イルピット定期市場 この定期市はシベリヤと歐露間の取引市場である。シベリヤよりは主として毛皮を供給して居る。期間は二月より初まり三月に閉市するが、近年餘り重要性が認められなくなつた。

カラコフエビフハニー定期市場 カラコフ、クレストシエンスカイヤ又はカラコフエビフハニー定期市と云ひ毎年一月十九日より二月十五日まで開かれる。この市場はウクライに産する原料品、半製品、精製品を取引する市場である。

ケフ定期市場 この市場は二月一日より三月十五日まで開かれ、取引高は一九二三年には二千八百萬、一九二四年には千七百萬、一九二五年には千五百萬金留であつた。

## 第六章 ソヴェートの對外貿易

### 第一節 貿易の狀態

露西亞の對外貿易は一九〇九年より一九一三年迄の平均に於て、一ヶ年輸出は十五億留、輸入は十一億留を示し、逐年輸出超過を續けて居たが、一九一三年以後に於ては次表に示すが如く顯著なる變化を示すに至つた。(單位百萬留)

年次	輸出	輸入	入出超
一九〇九—一三年(平均)	一、五〇一・四〇	一、一三九・六〇	出超 三六一・八〇
一九一三年	一、五〇〇	一、三〇〇	" 二〇〇
一九一四年	八八八	一、一〇九	入超 二二一
一九一五年	二七五	八七〇	" 五九六
一九一六年	二三七	八六二	" 六二五
一九一七年	一三七	八〇二	" 六六五
一九一八年	七・五	五七・三	" 四九・八
一九一九年	一	〇・六	" 〇・八
一九二〇年	一・四	二九・三	" 二七・九
一九二一年	一〇・二	一八一・二	" 一七一
一九二二年	八一・六二	二六九・七九	" 一八八・一七



一九二三年	一三三・二四	入超	一四・六五
一九二四年	五二二・六三	出超	八三・六三
一九二五年	五五〇・九五	入超	一六九・〇五
一九二六年	六六七・七七	"	五・九〇
一九二七年	八二〇・〇〇	出超	六五・〇〇

かくの如く露西亞の輸出入貿易は一九一四年以來僅かに一九二四年の出超を例外として、何れも入超を示して居る更に之を國別輸出入貿易について見るも、先づ輸出に於ては次表の如き變化を示して居る。

輸出先	一九〇九—一九一三年(平均)	一九二四—二五年	一九二五—二六年
英國	三〇七・四百萬留	一六八・八百萬留	一八七・〇百萬留
獨逸	四三五・一	八七・〇	一一一・〇
佛國	九四・五	二二・一	三九・七
其他	六六四・四	二七三・〇	三三〇・〇
計	一、五〇一・四	五五〇・九	六六七・七

即ち戦前に於ては獨逸を第一位とし、英國が第二位を占めたのであるが、戦後は常に英國が第一位を占め、この状態は今後も依然續けられるものと觀測せられる。

次に輸入貿易について見るに戦前と戦後は次の如き状態を示して居る。

輸入先	一九〇九—一三年平均	一九二四—二五年	一九二五—二六年
英國	一五〇・四百萬留	一〇七・八百萬留	一二五・四百萬留
獨逸	四九七・一	一〇一・六	一七二・二
佛國	五六・〇	九・一	一一九・〇
其他	四三三・四	五〇一・八	二五七・〇
計	一、一三六・九	七二〇・三	六七三・六

即ち輸入に於ては戦前は獨逸が第一位、英國第二位を占めて、戦後稍久しく兩者その地位を轉換したが、一九二六年度より又復獨逸が第一位を占むるに至つた。

かくて、その主要貿易品は一九二五—二六年に於て次表の如く、輸出に於ては石油、毛皮、木材、亞麻、輸入に於ては棉花、機械、農具等となつて居る。

主要輸出品	石油	亞麻
石	六九、四八七千留	四四、八二二千留
毛	六三、三一八	三〇、八五〇
木	五二、〇三〇	二三、六七三
雞	二三、六二九	一四、一八一
滿	二一、二八五	一〇、二七九
羊	九、二八〇	五、三三一
其他	魚	卵
滿	鱈	魚
港	毛	卵
油	魚	卵
皮	魚	卵
材	魚	卵
種	魚	卵
子	魚	卵
箱	魚	卵
箱	魚	卵
箱	魚	卵



主要輸入品		主要輸出品	
品名	数量	品名	数量
棉花	一一七、七七七千留	茶	二六、〇五七千留
機械類	七三、七八三	原料皮革	二四、八四二
家具類	七〇、六七四	羊製皮革	二一、八四一
農具類	五八、二一三	運輸用品	一九、五六一
農用品	四一、四〇二	塗料	一六、七四二
羊毛	三九、九〇九	皮革用品	一一、四三七
金類	二九、一七一	家庭用品	一一、一三五
紙類	二六、二三七	米	九、九九六
原料ゴム			

要之、露西亞の外國貿易は工業用物資輸入の旺盛なる事及び對英貿易の殷盛なることが最も注目し得る所であるが、更に戦前に於て露國の輸入貿易上常に第十二、三位にあり、其の輸入金額の如きも極めて僅少であつた對米貿易が戦後は一變して重要な地位を占むるに至つた事も亦看過を許さざる現象であらう。今米國對外貿易上に於ける對露輸出の地位を見るに、一九〇九—一三年に於て僅かに七%を占むるに過ぎなかつたのが、一九二四年には三〇%となり、一九二七年には三七%を占むるに至り、米國の對露輸出品中自動車、金屬品、農業機械、棉花、綿製品の如きは何れも百萬弗以上の輸出額を示すに至つた。かくて一九二三—二四年の米國對露輸出額は五千三百萬弗、一九二四—二五年は一億三百萬弗と漸次増加の跡を示して居る。蓋しかくの如く米露貿易が盛んになつたのは露國の産業(主として礦工業、農業)が、戦前の獨逸型より米國型に改造され居るが爲めであらう。即ち一九二一年より一九二二年にかけ

て現れた露國々營工業の復興方針は、米國式大規模工業の下に急速に大量生産を爲さんとし、當時(一九二一—二三年頃)大量生産を奨励すべき工場及び農業用機械等の寫眞、ポスターが盛に散布宣傳せられた事實に徴し、當時の復興精神乃至は方針を知る事を得べく、今後一層米國式大農具及び機械が多量に輸入せられる事と思はれる。

## 第二節 外國貿易制度

ソヴェートの外國貿易は周知の如く國營の下に、外國貿易人民委員會が之を行ふ事になつて居る。而して外國貿易人民委員會は該年度輸出入計畫表に基いて貿易を遂行し、只定められた品物を定められた數量だけを輸出入して居る。尤も國際貸借改善問題については相當考慮しつゝあるものゝ如く、輸出額を輸入額よりも多くし、國際貸借を受取勘定になる様に按配して居る。輸出資金は主に在外正貨を以て之に充て、輸出金額は國家の正貨準備に繰入れるし輸入金額は、之より支拂ふのである。尙外國貿易人民委員會は國家機關、企業團體、合同機關、縣執行委員會及び全露合同産業組合の委託した輸出貨物を手數料を徴して外國市場に販賣し、又全露産業消費組合中央同盟會を監督して在外産業組合々同體と直接の取引關係を結びその貨物を輸出せしめる事も出来る。

然らば外國貿易人民委員會は如何にして外國と商取引を締結するかと云ふに、これには外國に駐在する外國貿易人民委員會所屬のソヴェート貿易代表(商務官)がその命令によつて駐在國對ソヴェート輸出入貿易に關する事務を行ひ且つ認可されたる取引機關及び商人の行ふ外國貿易を取締るのである。

今露西亞と通商條約ある諸國のソヴェート貿易代表駐在地を示せば次の如くである。



駐在國	駐在國	駐在國
日本	東 京	ブハラ自治國
獨逸	伯 林	伊 太 利
英 國	倫 敦	土 耳 古
芬 蘭	ヘルシングボース	ウイenna
ラトビア	リ ガ	モントリール
エストニア	シヴェリ	クリスタニア
波 蘭	ワルソー	巴 里
瑞 典	ストックホルム	紐 育
丁 抹	コペンハーゲン	テヘラン
		波 斯

然し外國貿易の實際は國營輸出入貿易局(ゴストルグ)が行ふので、この貿易資金は外國貿易人民委員會の支出せる金額と、營業年度内の利益金とより成つて居る、本部をハバロフスク市に置き極東の貿易をなすものはダリゴストルグにして、浦塩、知多、ブラゴエチエンスク、哈爾濱、ウルガ、滿洲里、上海に支部、出張所を有して居る。

以上の如くソヴェートの外國貿易は、政府の計畫・豫算に基き、國家機關によつて行はれて居るが、外國貿易は一國々富の増減に多大の關係を齎すものなるを以て、政府もこの點に着眼し、尙一層貿易を盛ならしめる爲めにはこの窮屈な制度を緩和して私人の貿易も或程度まで之を認めんとして居る。全然この制度のまゝで推移するならば、急速な貿易の發展は望むべくもないと思はれる。然し貿易の制度を緩和すると云つても國營を棄てるのではない。豫算式

の貿易を稍緩和すると云ふ程度で、即ち特殊の貿易機關、國營商業部、中央同盟會、組合同盟其他を、實用向店舗に改めて業務形式を避け、外國貿易に貢献する農工業者を擁護し、更に輸出貿易に興味を有する個人機關をしてシンチゲートを組織せしむると共に、輸入會社の設立を奨励し、以て輸出入許可制度を簡易にするといふのである。

然しながら露西亞の外國貿易には現在一般外國に於て見るが如き私人貿易が認められて居ないから、一九二五年日露の國交が恢復しても彼我の貿易關係の發展は殆んど問題にならない程度のものである譯で、露西亞側に於ては貿易に従事するものは官吏で徒らに形式に流れ、商機を逸すること多きを以て、機敏な商人の之が應待に耐えない事は勿論であるが、日本側でもソヴェート側を全く信用して居ない有様であり、更に露西亞側が輸入品に對しては三ヶ月乃至九ヶ月後拂、輸出品に對しては現金主義を固守しつゝある以上到底圓滑なる貿易の發展は望むべくもないと云はざるを得ない。

要するにソヴェートの外國貿易は對外取引條件がソヴェートにのみ有利であつて相手國には不利であり、自國の貧弱な工業を保護する爲めに高い關稅を徵收し更に輸出税をも徵收しつゝある有様なるを以て、今直ちに露西亞貿易の殷盛を望み得ないが、此際我國に於ては對露貿易業者に對する長期金融機關を設け、露西亞人に適當せる堅牢低廉な日用雜貨を提供すると共に、我國所要木材、工業原料乃至は食糧の輸入を策するに於ては、總て現下不振を仰ちつゝある對露貿易も漸次進展を見るであらう。



## 第七章 ソヴェート貨幣制度

戦前露國の貨幣制度は金本位にして、貨幣單位は留であつた。而して通貨は金貨、銀貨、銅貨及び國立銀行にて發行せられる兌換券より成り、金貨は十留の表記價格を有し、その純分の市價も矢張り十留あつた。國立銀行よりのみ發行し得る兌換券は要求に應じて金兌換が行はれ、該銀行の金準備は十六億留に上つた。一九一四年一月一日現在の通貨狀態を政府の發表に據つて見れば次の如くである。

金貨流通高	四九四百萬留	銅貨流通高	一八百萬留
銀貨 "	二二六 "	兌換券 "	一、六五五 "

尙以上の諸通貨の外に一千五百萬留の大藏省證券が流通して居たから、合計で二十五億留以上の通貨があつた譯である。而して兌換券に對する發行準備金は發行高の約九十八%に當つて居た。

然るに歐洲大戰勃發後幾何もなく露國も他國同様兌換券の金兌換を停止した。この結果金貨の流通高は急に減少して遂には金貨は市場よりその影を潜めて了つた。而も其後豫算不足の填補等の爲め紙幣濫發の結果、その價値は急に低落し、一九一五年末には價値は三割に、一九一七年十月革命直前には戦前價値の一割に下落した。

十月革命に依るソヴェート露西亞最初の受難はソヴェート留紙幣の續落した事で革命最初の五ヶ年間の紙幣流通高は莫大な額に上りその價値は次表の如く殆んど無價値に近くなつた。

流通表記價格	實際價値	
一九一八年一月一日	二七、三一二百萬留	一、三一五・六百萬留
一九一九年一月一日	六〇、七六四	三七〇・五
一九二〇年一月一日	二二五、〇一四	九三・〇
一九二一年一月一日	一、一六八、五九六	六九・六
一九二二年一月一日	一五、〇〇〇、〇〇〇	六〇・九

一九一八年一月一日に對し一九二四年一月一日には留紙幣流通高は五百五十倍になつて居るが、實際價値は二十二分ノ一に下落して居る。

一九二一年新經濟政策の實施と共に貨幣制度を戦前の金本位に復歸せしむる事に決したが、その準備に着手する様見えざるのみか既に金の外國流出により國內には金本位制を復活せしむべき金準備がなかつたのである。従て之がため種々なる方策が行はれたが、結局國立銀行をして金を基礎にチエルオネツツ留紙幣を發行せしむる事となり、一九二二年十一月左の如き條件で之にチエルオネツツ紙幣發行權を與へた。

- 一、發行高の二割を金貨又は安定せる外國貨幣にて保證準備する
  - 二、殘餘の七割五分を直ちに換價し得る商品、各種短期手形及び證券を以て保證する事
- 但し右準備額の少くも三分の二は商取引より發生する純粹の商業手形たる事を必要とする
- 三、現在兌換せざるも將來兌換することを約す



四、本銀行券は政府に對する金貨を以てする支拂に際し其表示價格を以て通用し得る

五、國立銀行は貸出の返済には本銀行券にて支拂を要求し得る

六、一留を戦前の十金留とする

而してこのチエルオネツツ留紙幣には一チエルオネツツ、二チエルオネツツ、三チエルオネツツ、五チエルオネツツ、十チエルオネツツ、二十五チエルオネツツ及び五十チエルオネツツの七種がある。

然るに他方ソヴェート留紙幣は下落に下落を重ねて居た。そこで當時露西亞には、二種の紙幣即ち價値の變動少きチエルウオネツツ留紙幣と下落の先見えざるソヴェート留紙幣があつた譯で商取引上の不便の上もなかつた。茲に於て政府は一九二四年二月十四日にはソヴェート留紙幣の發行を一時中止し、法定を以て比率その價値下落を救はんとしたが、間もなくその不可能なるを知り、遂に一九二四年五月初にソヴェート留紙幣の流通を停止した。茲に於て露西亞は單一貨幣となつたのであるが、チエルウオネツツ留は戦前の十金留に等しく、その單位が餘りに大に過ぎる爲め、日常生活、小取引用には更に小額の通貨を必要とした。故に一九二四年二月五日の中央執行委員會は五留、三留、一留の大藏省證券の發行を許可し、之を法貨として國立銀行は勿論、其他の信用機關に於ても之をチエルオネツツ留紙幣に兌換せしめることとした。更に同年二月二十二日には小額貨幣として銀貨、銅貨を鑄造する事に決定し、この鑄造規定は戦前のそれをその儘使用した。即ち銀貨は一留、五十哥、二十哥、十五哥、及び十哥、銅貨は五哥、三哥二哥及び一哥とし之等を總て法貨とした。

## 第八章 ソヴェート信用機關

ソヴェート銀行制度及び信用制度の復活したのは、彼の國立銀行が一九二二年新制度の下に於てチエルオネツツ留紙幣を發行し始めた以後の事である。新經濟政策實施以後に於ける貨幣流通貨幣の激増及び信用の發達は、總て國立銀行の業務を擴大して全露に約四百五十の支店出張所をつくらしめたが、夫でも到底沸き起る貨幣需要の聲、信用投與の聲を消し去る事は出来なかつた。茲に於てか露西亞には地方銀行を初め、相互信用組合、農業銀行も、質屋さへも時勢の要望によつて恰も雨後の筍の如く頭をもたげたのである。以下現在露西亞に在る代表的信用機關について概説して見よう。

一 商業銀行 商工業金融をなす種類の銀行にして株式組織を以て最初に設立せられ、此種の最も重要な銀行としては露國通商工業銀行 (T. Kombank) がある。之は露國の國營企業及外國貿易に對する金融機關として一九二二年十一月一日に創立せられ、現在の資本金は二千五百萬金留にして、内拂込は二千三百七十六萬七十九金留であるとの事で、その本店はモスコイにある。

之に亞いで設立せられたのは外國貿易銀行 (Ro. Combank) で之亦モスコイに本店を有し、一九二三年三月の創立に係り現在の資本金は一千万金留にしてロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國と他の同盟ソヴェート共和國間の商工業關係の連絡を圖り、併せて外國貿易の發達を期するを目的とするものである。其他一九二二年四月二十五日に創立せら



れ、公稱資本金五百萬金留の極東銀行、一九二二年十一月二十二日創立の全露産業組合銀行（Vsevolny Bank）あり、前者は極東に於ける採金業の助長發達並に外國貿易に對する金融を行ひ、後者は主として産業組合に對する資金の供給を圖るを目的として居る。更に地方的金融を行ふものは西南商業銀行、韃靼銀行、蒙古商工業銀行、中央亞細亞銀行がある。

この中對東洋貿易の金融機關となつて居り、我が國にも多大の關係ある極東銀行（Dalbank）に就きて少しく詳細に説明して見たい。

極東銀行は一九二二年四月極東露共和國政府に依つて設立せられたもので、この銀行の營業範圍は制限せられて居ない。當行の機能は西伯利亞の農工商の發達を企畫すると共に、ソヴェートの極東に於ける輸出入貿易の金融に従事する事である。この業務を遂行する爲めに哈爾濱に支店、支那、日本にも支店出張所を有し、更に蒙古商工銀行とも取引關係を有して居る。現在資本金は二百萬留にして、業務は重役會及び株主選出の委員會に依つて行はれ會計は監査委員に依つて監督せられて居る。而してその本店はハバロフスクにある。今當銀行の定款を摘録すれば次の如くである。

- (一) 極東銀行は農業、工業、商業の發達を助長する爲め金融的援助を行ふを以て目的とす
- (二) 極東銀行は株式組織とす
- (三) 極東銀行は左の業務を行ふ

イ、期限九ヶ月以内の露國及外國の約束手形並に同爲替手形の割引並に再割引。但し割引又は再割引に附せらるる諸手形は二名以上の署名を以て之が支拂保證あるものに限る

ロ、共和國內に於て流通を許可せられたる有價證券利札、他銀行の小切手、官公署、公共團體、コオハラチアの諸企業其他個人及び個人會社より商取引關係に於て個人及び個人會社に支拂はるべき期日拂債務書の割引

ハ、左に列記する擔保品付定期貸出並に同當座貸越勘定の方法による要求拂の貸出

A、容易に損傷せざる商品類並に同上商品に對する倉庫證券、質入證券及び運送中にある同上商品に對する税關免狀、汽船會社其他運送會社發行の船荷證券領收證並に鐵道引換證其他

B、貴金屬類、外國貨幣、荷爲替手形及び利付爲替手形

ニ、個人所有の工場、建物及其他の財産を補充的保證の低當物とし振出人のみの署名ある諸手形（單名手形）を擔保として當座貸越勘定の方法に依る要求拂の貸出

ホ、他銀行、會社並に個人に對し第三者が負擔する其債務支拂に付確實なる保證をなすこと

ヘ、自己の計算又は第三者の委託に依り取扱ふ所の鑽金、金塊、貨幣、外國貨幣並に紙幣、荷爲替手形、小切手、内外爲替手形其他共和國內に於て其流通を許可せられたる官私有價證券類の賣買

ト、第三者の計算を以て銀行に其取立を委任する諸手形並に其他の證券に對する支拂の受領

チ、約束手形並爲替手形の振出及び引受又は國內並に外國に於ける支店及び取引銀行の支拂に對し相當金額を現金を以て先取りし或は依頼者の銀行預金中より先取りする支拂事務

リ、銀行支店其他取引先のある各地宛又は之等各地よりの被仕向送金其他の取扱並に信用狀の發行及び受領事務



×、發送せられたる貨物に對する諸證券を擔保として之が價格の全額或は其一部を先取りし、殘額を貸與し證券到着と共に返  
滯なく債務の辨濟をなすの條件を以てする信用狀の發行及其引受

ℓ、當座預金、定期並不定期預金の受入及仕拂

オ、有價證券、金銀、其他貴金屬並に各種證券類の受入及保管

リ、官廳、地方都市其他公共團體發行の債券並に政府より其發行を許可せられたる株券、債券其他有價證券の公券に對する委  
託引受

カ、自己の計算又は委託に依り各種の運送業並に倉庫業を開始すること

次に市營銀行がある、此種の銀行は全露主要都市に設置せられたるものにしてその數約三十あり、一九二三年一月  
十八日附自治團體銀行條例に準據して設立せられたるものである。その主たるものはモスコイ市立銀行で一九二三年  
初に設立せられ、現今では露西亞大銀行中、屈指のものとなつて居る。一九二五年初には中央市立銀行がモスコイに  
設立せられて都市事業、家屋建築資金を貸與して居る。

二 組合銀行 地方の消費組合、産業組合、農業組合、商業組合等中央組合に統轄せられる各種組合に金融する爲め  
の銀行にして、中央組合銀行等に支配せられて居る。この中最も重要なものは農業銀行で、この銀行は當初縣の監  
督を受けて農業金融を司つた農業信用組合を統御するものである。一九二四年七月モスコイに本店を有する中央農業  
銀行が設立せられるに及び、農業金融機關を統一する事となつた。資本金は四千萬金留で、全部國庫の支出になるも  
の、如く、農民に對する農具買入資金の調達、運轉資金の供給、農産物の販賣取扱を地方の農業信用組合を通じてな

すのである。

三 相互信用組合 現今露西亞にある信用機關は、國立銀行は勿論株式組織の銀行、中央農業銀行、乃至は市營銀行  
等何れも純然たる國營企業か、然らざれば公共團體の資本關係にあるもののみであるが、こゝに私營金融機關がある  
事を忘れてはならない。それは相互信用組合であつて、今日ではソヴェート信用補助機關となつて居る。而して絶え  
ず進歩發展の途上にある。目下この種金融機關は約八十あり、個人企業に對する唯一の金融機關にして、主として貧  
民階級、中小商工業者に對する金融を司つて居る。

四 貯蓄銀行 貯蓄銀行の發展は目覚ましきものあり、その數は戦前より遙かに増加した。一九二四年十月一日現在  
にてはその數九千七百五十六行、之を戦前の六千九百九十六行と比較する時は二千七百餘の増加である。そして現在  
の預金者總數は八十萬である。

五 質屋 ソヴェート共和國のモスコイ、レーニングラード等の主要都市には質屋がある。之は一九二二年十月十  
一日付質屋規則に依つて設立せられたるものにして、資金は地方自治體の出資又は地方自治體と組合又は個人との合  
併出資に係り、又資本最低額は二萬五千金留に限局せられて居る。現在この種質屋は全露に約十五を有して居る。

六 中央銀行 以上の如く現在ソヴェートには各種の金融機關があるが、之等を統一し金融の統制をなすものはソヴ  
エート共和國國立銀行 (Gosbank) にしてその業務は頗る廣汎に亘り、他の金融諸機關に信用を與ふると共に貿易及び  
産業にも亦金融するので中央銀行として金融界に大勢力を有するものである。



國立銀行は一九二二年十一月に設立せられ、一九二二年末までは未だ特殊銀行としての地位なく又新留紙幣も發行して居なかつた。而して一九二二年十月十一日國立銀行に戦前の十留に相當する金チエルウオネツツ留紙幣の發行權が與へられた。従つて一九二三年中には露國には絶えず價值の下落しつゝあるソヴェイト留紙幣と、新たに發行されたチエルウオネツツ留紙幣の二種の紙幣が流通して居た事になる。然し乍ら一九二四年初にはソヴェイト留紙幣は政府の金留紙幣と代替した。後漸次チエルウオネツツ留紙幣が流通し出したのであるが、價值遞減する紙幣流通より價值安定せる紙幣使用への過渡は國立銀行の今日ある基礎を造つた。今過去四ヶ年の國立銀行の紙幣發行状態を見るに次の如くである。

紙幣發行高	發行準備	
	金及確實ナル外國貨幣	各種證券
一九二三年一月一日	一一、二〇〇千留	四、一〇〇千留
一九二四年 "	二八〇、〇〇〇	一三七、四〇〇
一九二五年 "	五九六、〇〇〇	二五三、六〇〇
一九二六年 "	七八一、三六三	二六六、八五三
		五二二、一四三
		八、六三〇
		一、五〇〇
		九〇〇
		三、八〇〇千留

國立銀行への預金は國立銀行が新紙幣發行權を得るまでは云ふに足らざるものであつたが、新銀行券發行以來急に増加し、一九二五年一月一日現在では四億五千二百九十萬留に達した。而も所有金塊及び諸貴金屬、外國貨幣の所有額は次表の如く増加し、常に之を紙幣發行準備に充當したる爲め法定以上の良好なる準備率を維持し得たのである。

一九二三年一月一日	金塊、貴金屬、外國貨所有高
一九二三年一月一日	三一、四八〇、〇〇〇留
一九二四年 "	三〇一、一三〇、〇〇〇
一九二五年 "	三四四、二〇〇、〇〇〇
一九二六年 "	二六六、八五四、九八〇

斯くて國立銀行はその優良なる資産状態と、發行銀行たる權威とを利用してソヴェイトの金融界の改善を企圖すると共に、外國貿易の金融にも従事したのである。この輸出貿易金融は一九二四年度に於ては二億二千八百餘萬留に達し、全ソヴェイト輸出貿易の半は國立銀行に金融を仰いだ事となつて居る、之と同時に輸入貿易金融は四億九千七百餘萬留ソヴェイト輸入貿易金融の八割までは國立銀行が資金を融通したものととなつて居る。



## 第九章 ソヴェートの交通

ソヴェートの交通復興は極めて困難な状態に在る。今鐵道を中心とする交通状態について見るに一九一三年末に於て露國の鐵道は次の如き數字の下にあつた。

種類	延長		割合
	露	亞露	
國有鐵道	三三、七一三露里	一〇、二六二	五三・八%
私有鐵道	一八、八〇一	二九・九	一六・三
計	六三、七七三	一〇〇・〇	

即ち全延長六萬三千七百七十三露里(普通四露里を以て我が一里と換算する)であつた。又この年に於ける機關車數は二〇、三二〇臺、此の内完全車一六、九二〇臺、全數に對する故障車割合は一六・八%、貨車は五〇二、一〇一臺、内健全車四七四、六四五臺、全數に對する故障車割合五・五%を示して居た。これが戦争及び革命に依り左の如き變化を示すに至つた。

年次	機關車總數	内完全車數	貨車總數	内完全車數	客車總數	内完全車數
一九一三年	二〇、三二〇臺	一六、九二〇臺	五〇二、一〇一	四七四、六四五		
一九一四年	二〇、〇五七	一七、〇〇〇				
一九一五年	一六、五〇〇					

一九一六年	一七、八〇〇	一五、〇〇〇				
一九一七年		一四、五一九				
一九一八年		四、一四一				
一九一九年		四、〇一九				
一九二〇年		九、八二一	四四四、〇〇〇	三三四、〇〇〇	二二、三〇〇	一三、五〇〇
一九二五年	二〇、二六八					

即ち一九二五年に於ける状態は完全機關車及び貨車數は數字的には戰前状態に近づいて居るが、これも工業復興と同じく非常な無理を重ねてこゝまで到達したのであるから危険を孕んで居る。即ち車輛の取換へを要するもの、大修理を加へなくてはならぬものが非常に多いのである。今一九一四年から一九二〇年に至る七ヶ年間に戦争及び革命の爲めに破壊されしものは次の如くである。

種類	數量	種類	數量
橋	四、五〇〇箇所	鐵道附屬家屋	三八〇棟
車庫	三八〇棟	組立工場(延坪)	四、〇〇〇坪
給水塔	四一六箇	其他建物(平坪)	一〇、〇〇〇坪

又右の期間に失ひたる車輛は約十二萬輛、内三千輛は獨逸軍の爲めに失ひ、残りは波蘭、ラトウイヤ等分離したる國に残されたるものと云ふ。線路は一九二五年末に於て一五、〇〇〇露里が取換へを要する事になつて居る又枕木は現在(一九二七年十月末)全數の四四%が取換へなければならぬと云ふ。次に鐵道の輸送力は一九一三年を一





〇〇とすれば一九二七年は六〇%である。ソヴェートの鐵道が斯くの如き状態に陥つたのは主として久しきに亘る戦争及び革命に原因する。即ち諸工場の機械の自然破損、内亂による損傷破壊、材料缺乏、熟練工の戦死、酷使運轉、線路の不良より來たる車輛損傷等が主たり副たる原因である。

ソヴェート鐵道當局は鐵道復興を急務中の急務となし、今や全力を之に集注して居る。又今後の復興計畫として左の如き計畫が建てられ實行に着手して居る。

運輸—貨物の運輸計畫確定數量

一九二五—一九二六年度	三、七一〇百萬布度
一九二六—一九二七年度	三、九七〇
一九二七—一九二八年度	三、九七〇
一九二八—一九二九年度	三、三一〇
一九二九—一九三〇年度	三、九〇〇

保線—其他の支出豫算

保線費(五ヶ年間ニ)	四〇〇、九〇〇、〇〇〇留
輪轉材料修理及新設	一、〇〇五、五〇〇、〇〇〇
其他	四五、〇〇〇、〇〇〇
冷蔵設備	二六、〇〇〇、〇〇〇
計	一、四七七、四〇〇、〇〇〇

次に鐵道の收支豫算(計畫分)を見るに一九二五年の一九二六年度より一九二九—三〇年度迄の五ヶ年間の收入總計五十九億二千五百十萬留、支出總計四十八億八千八十八萬留、差引利益十億四千四百四十萬留、この利益の中二億留は國庫に入るゝことゝなつて居る。結局残る所は八億四千四百四十萬留である。一方復興費の支出は前記の如く十四億七千七百四十萬留であるから差引六億三千三百萬留が不足となつて來るこの不足額を何處に求めるか、これが問題である。國內に求めんとしても之を求むべきところがない。農業は未だ斯くの如き資金を産む迄に至らず、工業はとも見込がない爲め結局はこの資金を外國に求むるの外はない。



## 第十章 結 言

ソヴェート經濟復興の裏面には幾多缺陷を藏しては居るが、兎に角新經濟政策施行後回復の一途を辿り、今日の狀態に到達したのである。或者はこれは新經濟政策の爲めでなく、共産主義を棄てたからだと云ふが、果して何れが妥當であるかはこゝで論評の限りではない。然し新經濟政策施行後露西亞の經濟狀態が非常な變化を示した事は事實である。即ち農村には富農、中農、貧農の三階級が生れた。都會には私營商業が榮え「ネツプマン」さへも生れた。政府はこの現象に對し農村には放任主義をとり、都會の私營商業には重税を課して非常な壓迫を加へた。之が爲めに二十五萬の私營商店の閉鎖を見るに至り、新しく生れた商業組織を混亂に陥れ、その結果は分配上に障害を齎らし自ら苦しむ立場に陥つたのである。政府はこの苦境を脱せんが爲め、一九二五年の四月所謂新商業政策なるものを出し、一旦壓迫した私營商業をも認め、こゝに商業組織を國營、組合、個人の三段としたのである。然し政府は商業組織の根本原則を國營に置ける關係上、個人商業を許し乍らも壓迫の手は之を緩めないものである。翻つて農村に對する施政方針を見るに農村に對する態度は迎向的の放任主義を採り、一面に於ては所有權(穀類)を許し、又農具を貧農に給與する等積極的の援助さへも與へたのである。この態度方針は農民を刺戟し、有能なる農民は漸次蓄積(穀類代金)を富農となり、又殆んど全部が貧農の狀態を脱して中農と化して來た。この農村の變化に對しトロツキー一派は盛に大農中農に重税を課せよと叫んだものである。ジノヴィエフは大農、中農に對する課税に依り七億留の資金を得られる。

この資金を工業復興に投ずべしと云つた。政府當局の幹部派はジノヴィエフに教へられる迄もなく、農村から多くの資金を得る目的を以て農民を保護し來つたのである。即ち農産餘剰品を輸出したる代金を以て工業復興資金に當てんとしたのである。然しこの計畫はいつも失敗に終つた。農民は生産餘剰を工業復興資金に投ぜず(政府の資金吸収に應ぜず)是れを農場の擴張倉庫の建設、家畜の繁殖に向けたのである。農民及び農村としては

- (一) 政府の保護があり
- (二) 農村は革命の禍はなくなる
- (三) 生産品の所有權は認められる
- (四) 生産品販賣の市場は回復する
- (五) 労働者の雇傭は自由となる
- (六) 土地の貸貸借は自由となり
- (七) 生活に追はれた都會労働者(純然たる工人は露西亞には少なく、多くは農民である)は農村に流れ込む
- (八) 赤軍整理にて歸農者は殖へ、勞力は増加する

等の諸事項は農村の復興を助けた。叙上の事情より農村は見る／＼内に復興して來た農村は確かに復興して居る。只將來に残されて居る問題は政府の大工業組織(亞米利加式)の完成したる曙に於て、農民の副業として農民の財政を助け居る手工業を壓迫する事がないか、又政府の奨励して居る大農法の實現に依り、中農を貧農に落しはせぬか、そしてそれを壓迫する事はないか等の諸點である。

次に工業復興の將來を案するに、この復興は仲々容易でないと思はれる。今ソヴェートの工業は前述の如き理由の



下に行き詰つて居る。それを打開するには人材と資金が要る。ソヴェートの經濟學者ピアタコフは「革命政府の工業は國有資本を費消し盡した。如何にしてこれを恢復すべきか、これが今後に残された露國工業の中心問題だ」と云つて居る。そして同氏は缺乏の資本は之れを個人資本に求めよと叫んで居る。ソヴェートに於ける個人資本の所有者は都會に於けるネツプマンと農村に於ける富農及び中農である。過去に於て之等から資本を吸収する事は企てられ且つ實行されたが、夫れは失敗に終つた。現在としても産業復興に要する莫大なる資金を吸収する事は困難の現状に在る。恐らく近き將來に於ても求め得られないのでないかと思はれる。従て工業復興資金も之を外國に求むるの外なからう。即ち利権を提供し外資を誘致するか、借款により外資を手に入れるか、この二途を選ばねばなるまい。トロツキは第十二回共産黨大會に於て「吾人が外國借款を實現し得れば、我國の經濟的發達を迅速ならしめる事が出来やう。吾人は資金を得る途を知らねばならぬと云ふが、之は全く眞實である。之が爲めにこそ吾人はロンドンに我國敏腕家の一人を派遣した。之は余人に非ずレオニド、ポリソヴキチ、クラシン氏其人である。氏は我國が資金を渴望してをる旨を英語に翻譯した。氏は資金獲得の爲めに彼の地に派遣されたのである。然し之が何等の結果を齎らさなかつた事は秘密ではない」と云つて居る。今ソヴェートは多くの外資を渴望して居る。けれども現在のソヴェートに對しては各國共投資を躊躇して居る。この躊躇の原因は(一)多額の資金を長期に亘り投下せねばならぬ事 (二)投資に對する法律上の保護薄き事 (三)労働法規嚴重なる事 (四)利権に對する條件辛く、利権所有者の利益を最少限度に制限せんとする事 (五)國內の重要工業鑛業が殆んど總て國營なる事 (六)個人法人を問はず外人企業に對し重税を課す

る事 (七)通貨の下落甚だしき事等外資供給者にとり極めて不利な事情が伏在して居る。又外債に對しては戰前債券破棄の惡例ありて不安が除かれて居ない。之等の不利、不安を除かざる限り露國は外資を求め得ないであらう。外資を求め得ざる限りソヴェートの工業復興は困難であると思ふ。ソヴェート當局は外資の自由侵入を許せば共産主義國民たる露國人は忽ちにして資本主義の國民と化し、その産業は跛行的となる。露西亞には最早共産主義國民は無い。又指導宜しきを得ればソヴェートの産業をも跛行的にせしめないと思ふ。要するにソヴェートが前述の如き態度方針を固執する限り年來渴望する外資は得られない。そして工業の復興も容易に望まれない。行詰まれる現状を打開する事は勿論出来ない事である。故にこの際讓歩して外資を入れるか、さなくば退いて農商民より強制擄取するか、この二つより外に工業復興資金を得る途はない。農商民よりの擄取は反亂を見るべき懸念があり、且つ握れる政權を失ふ憂がある。外資輸入に對して現状を固執し続けんか、國內の行詰まれる工業は再び混亂を招くに至るであらう。大讓歩それは共産黨の政治的生命を失ふ基ともならう。

進まんか、退かんかこれ現政府の苦惱しつゝある大問題である。一九二八年にはこれが決せられる年ではあるまいか、何と云つても決せねばならない年である。決せねばならない程ソヴェートの工業は行詰つて居る。

次に交通復興の將來を察するに、是亦莫大な資金を必要とし、これを得ざる限り復興至難と思はれる。政府も交通復興には頭を痛めて居る様であるが何しろ先立つものが現ソヴェート第一の苦手である資、である爲め復興が困難である。是も亦外資によるより外に適策がない様だ。最近の報道によると補助的交通機關として自動事を利用し現在の



交通機關の缺陷を幾分にも補はんとするものゝ如く、而して其計畫は、總工費七千萬留(資本も含むものと思ふ)を以て一ヶ年一萬臺製造の工場を造ることになつて居る。何しろ鐵道復興に要する資金のみにも莫大なるものと思ふ彼の日露戦争後の鐵道復興は現在の如き慘狀を呈して居なかつたに拘らず、三萬五千露里の鐵道復興に對し十六億留を費したのであるから、今回の復興にはより以上の復興費を必要とする譯である。露西亞鐵道當局の示せる所によると現下露國の鐵道復興費は約十五億留と計上されて居る。今假にこの程度に留まるものとしても、この資金を國內に求める事は現下のソヴェートとしては中々容易ではない。従つて之も外資によるの外はない。

次に貿易の復興は如何、是れも容易でない。ソヴェートは農業國であり、無限の原料國である。ソヴェートの政體が如何に變るとも穀類及び工業原料の國としては變りはない。ソヴェートは穀類及び工業原料供給國として立つところに生命があり、強味がある。然るにソヴェートの現狀は穀類生産及工業原料の生産に多くの餘剰を持たない。従つて輸出も僅少にて之より復興資金を得ることは困難の現狀にある。この状態を打開するが爲めソヴェート當局は極力農村を保護し、穀類及び工業原料の生産増加を計つて來た。又一面に於ては社會主義的對外貿易國營の精神を緩和し資本主義的對外貿易精神に移り、自國産業保護を目的とする貿易國營に轉じた。ソヴェート當局は貿易の國營に對し當初社會主義遂行の爲めに貿易を國營すると稱したるに拘らず、最近はソヴェートは歐洲諸國と貿易の自由競争は出來ない。貿易の自由を許せばソヴェートは滅亡すると稱し極端なる保護主義を執つて居る。成る程ソヴェート當局が云ふ通り現在のソヴェートに貿易の自由を許せばロシアの市場は忽ちにして各國商品の植民地と化する事は事實で

あると思ふ。そして之が爲めに延いて露國の産業を壓迫し、工業の如きは波行的となるかも知れない。従つて産業の獨立性を造らんが爲めには、又露國が生きんが爲めには貿易を國營とし、保護主義を採るのも無理からぬ事である。又露國ゴストルグが對外取引に對し、自國の御都合主義を敢行せんとするの今ソヴェートとして止むを得ない事かも知れない。けれども世界各國は、英國、獨逸、佛蘭西、日本、亞米利加はソヴェート露國の爲めに存在して居るものでない。各國は各々生くべき權利があり、又各國を生かすべき義務がある。共に生き共に榮へんが爲めには互讓が必要である。現在の露國當局は讓る事をせない。讓るのは農民に對してのみである。これでは彼等の熱望する外資も亦貿易の進展も得られないと思ふ。

終りにソヴェート經濟復興の重任を擔ふ現露國各種機關の首腦者を見るに、共產主義の闘士としては有能であり、訓練もあるかも知れないが、經濟戦場の闘士としては無能であり、訓練が足りない。レーニンは露國人を評して曰く「露國人百人中六十人は無智なる者、三十九人は無頼漢、残る一人が共產黨員だ」と。これは餘りに酷評だと思ふが要するに露西亞に人物のない事は事實だ。殊に經濟戦線の勇士に於て甚だしい。一九二四年一月末現在に於て全露ソヴェート各機關及び全露ソヴェート大會の全幹部數の九七%を共產黨員が占めて居た。この状態は現在に於ても變りはない。勿論共產黨員中にも有才の士があらうがその數に於て少ない事は事實である。ピアタコフは「工業復興の爲めには私有財産及び個人企業を擴大し、權力を聞へよ、國營工業振興の爲め有能の支配人を選ぶべし」と叫んで居る。トロツキもソヴェートのツラストに人物なきを嘆き、海軍當局は「ソヴェート現在の海軍には複雑なる科學優秀な



る技術を解し、又持つ者及び高等教育と訓練ある専門家二千名を必要とする。然るに現在是等の人士は三百人に足りない」と報じて居る。推してソヴェートの各方面に如何に人物なきか想像せられる。

由來露國人は(一)頭腦粗雑傲慢にて(二)獨創力を缺き(三)運用の才に乏しく且つ(四)研究心なく無器用な國民であると云はれて居る。而して近代物質文明の向上に禁物である冥想思索に走り、現實を輕視する傾向がある。現實に生きんとする露國に於て今も尙この精神は失せない。又かく短時日の間に失せる譯もない。

かゝる國民性を持つ國民に經濟難救済の大任を擔はす事は無理であり、至難の事である。換言すればソヴェートの産業復興を爲さしむるには不適當なる國民である。戰前獨逸人が組織的才能と、研究心に富む頭腦を以て露西亞の産業界に乗り出し之を左右する勢力を得た事は、彼我の國民を比較對照して見て當然の結果であると思はれる。

ソヴェートは經濟復興の爲めに又新産業建設の爲めに多くの有能な人士を、特に技術者を必要とするが、是れを國內に求むる事は困難である。ソヴェート當局はこの點に早くより着眼し、一九二一年新經濟政策施行直後多くの獨逸人技師を招き、製麻、硝子、化學工業等の復興及び建設に當らしめた。今後は一層外人技師の輸入に努めるであらう。そして一面には自國人技術者養成を爲すであらう。前にも云つた如くソヴェートの産業復興及び新産業建設の爲めに將又大改造事業遂行の爲めに缺けたるものは資金と人物である。この二つを得る事によつて行詰まれる現狀を打破し眞の復興の彼岸に達し得る。又進んで改造進歩の實を擧げ得ると思ふ。然して資金は外資輸入により解決せられやうがそれには大讓歩を必要とする。一九二八年以後の露國は復興及び改造資金を得る爲めに多くの讓歩を餘儀なくせ

しめられるであらう。貿易に企業に彼等は一步一步退いて行かなければなるまい。人は之を各國に求めるであらう。

歐露にては主として獨逸人、米國人を、極東に於ては日本人を求める様になりはせぬかと思はれる。

一九二八年は露國の産業、貿易、交通等あらゆる場面に大變化を齎らす年ではあるまいか。ソヴェートの産業が改造の第一步を力強く踏しめる年ではあるまいか、一九二八年それは實に興味多き年であらうと思ふ。



昭和三年三月二十八日印刷  
昭和三年三月三十一日發行

發行所 大阪市役所産業部調査課  
電話本局五〇五〇番

印刷所 大 阪 進 光 堂  
大阪市此花區大圓町二丁目一四〇  
電話土佐堀一七四三番



879  
13

NO.

**"F-M"**  
**PAMPHLET BINDERS**

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 24.cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853(菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854(四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855(特)	24. "	x 15. "	x 1 "

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

**F. MAMIYA & CO.**  
OSAKA - TOKYO - FUKUOKA





